

ロシア-ウクライナ戦争（ウクライナ語：російсько - українська війна

ユーロマイダンの抗議とそれに続く2月22日のウクライナ大統領ヴィクトル・ヤヌコビッチの解任に続き、ウクライナでの親ロシアの不安の中で、記事のないロシアの兵士がウクライナのクリミア領土内の戦略的地位とインフラを支配しました。

2014年3月1日、ロシア連邦院は全会一致で、ロシアのウラジーミルプーチン大統領にウクライナで軍事力を行使するよう請願する決議を採択しました。

決議は、「クリミアの帰還」に関するロシアの軍事作戦の開始後、数日後に採択されました。

その後、クリミア自治共和国がロシア連邦に加盟することになったクリミア議会の占領後にロシアが組織した広く批判された地方国民投票の後、ロシアはクリミアを併合した。

4月、ウクライナのドンバス地域での親ロシアグループによるデモは、ウクライナ政府とロシアが支援する自己宣言ドネツクの分離主義勢力との間の戦争にエスカレートした。

ロシアの軍用車両がドネツク州のいくつかの場所で国境を越えました。

ロシア軍による侵攻は、9月初旬のウクライナ軍の敗北の原因であると見られていた。

2014年11月、ウクライナ軍は、ロシアからウクライナ東部の分離主義者が支配する地域への軍隊と装備の集中的な移動を報告した。

AP通信は、反政府勢力が支配する地域を移動中の40台のマークのない軍用車両を報告した。

欧州安全保障協力機構（OSCE）の特別監視ミッションは、DPRが管理する領土で記事のない重火器と戦車の輸送船団を監視しました。

OSCEの監視員はさらに、人道援助の護送船団を装って、弾薬を輸送する車両と兵士の死体がロシアとウクライナの国境を越えているのを観察したと述べた。

2015年8月初旬の時点で、OSCEは、戦死した兵士のためのロシア軍法が記された21台以上のそのような車両を観察しました。

モスクワ・タイムズによれば、ロシアは紛争でのロシア兵の死について話し合っている人権労働者を威嚇し沈黙させようとした。

OSCEは、そのオブザーバーが「ロシアと分離主義者の合同軍」によって支配されている地域へのアクセスを拒否されたと報告した。

国際社会のメンバーの大多数やアムネスティ・インターナショナルなどの組織は、革命後のウクライナでの行動についてロシアを非難し、国際法を破り、ウクライナの主権を侵害したと非難した。

多くの国が、ロシア、ロシアの個人または企業に対して経済制裁を実施しました。

2015年10月、ワシントンポストは、ロシアがシリアのバシールアルアサド大統領を支援するために、そのエリートユニットの一部をウクライナからシリアに再配置したと報告しました。

2015年12月、ロシア連邦大統領ウラジーミル・プーチンは、ロシアの軍事諜報員がウクライナで活動していることを認め、彼らは通常の軍隊と同じではないと主張した。

2019年2月、ウクライナの領土の7%が、ウクライナ政府によって一時的に占領された領土として分類されました。

ソビエト首相のニキータ・フルシチョフは、1954年にロシア/ソビエト黒海艦隊の本拠地であるクリミアをロシアSFSRからウクライナSSRに移管しました。

ソビエト連邦の一部であり、モスクワの政府に回答可能です。

クリミア自治は、国民投票の後、ソビエト連邦の解散直前の1991年に再確立された。

ウクライナは1991年以来独立国であるにもかかわらず、旧ソビエト共和国として、ロシアからその勢力圏の一部であると認識されてきました。

Iulian Chifuと彼の共著者は、ウクライナに関して、ロシアは「制限された主権」に関するブレジネフ教義の近代化されたバージョンを追求していると主張している。

この主張は、ウクライナをNATOに統合する可能性があるというロシアの指導者の声明に基づいている。

ロシアの国家安全保障を危うくするでしょう。

1991年にソビエト連邦が解散した後、ウクライナとロシアは何十年にもわたって非常に緊密な関係を維持し続けました。

同時に、いくつかの問題点がありました。

最も重要なのは、ウクライナが安全保障に関するブダペスト覚書（1994年12月）でロシア（および他の署名者）がウクライナの領土保全または政治的独立に対する脅威または武力行使。1999年、ロシアは欧州安全保障憲章の署名者の1人でした。

「同盟条約を含む安全保障協定が進展するにつれて、自由に選択または変更できるという、参加するすべての国の固有の権利を再確認した」。

2つ目のポイントは、黒海艦隊の分割でした。

ウクライナは、ロシアの黒海艦隊がウクライナ海軍と一緒にそこに拠点を置くことができるように、セヴァストポリを含む多くの海軍施設をリースすることに合意した。

1993年から1990年代、2000年代にかけて、ウクライナとロシアはいくつかのガス紛争に巻き込まれました。

2001年、ウクライナは、グルジア、アゼルバイジャン、モルドバとともに、民主主義と経済開発のためのGUAM組織と呼ばれるグループを結成し、ロシアはCISへの直接の挑戦と見なした。

ソビエト連邦の崩壊により、ロシアは2004年のオレンジ革命にさらに苛立ち、親ロシアのヴィクトル・ヤヌコビッチの代わりに親ヨーロッパのヴィクトル・ユシチェンコが大統領に選出された。

さらに、ウクライナはNATOとの協力を強化し続け、2004年にイラクに3番目に大きな部隊を配備し、平和維持軍をアフガニスタンのISAF部隊やコソボのKFORなどのNATOミッションに捧げました。

2010年に親ロシア大統領のヴィクトル・ヤヌコビッチが選出され、ロシアはウクライナとの多くの関係を修復できると感じた。

これ以前は、ウクライナはクリミアの海軍施設のリースを更新していませんでした。

つまり、ロシア軍は2017年までにクリミアを離れる必要がありました。

しかし、ヤヌコビッチは新しいリースに署名し、許容される軍隊の存在を拡大し、軍隊がケルチで訓練できるようにしました。

ウクライナの憲法は、セヴァストポリ条約の満了後、恒久的な外国軍をウクライナに駐留させてはならないと定めているため、ウクライナの多くの人々はこの延長を違憲と見なした。

ヤヌコビッチの主な反対派であるユリア・ティモシェンコは、政治的迫害と呼ばれる容疑で投獄された国際的なオプザバーによって、政府へのさらなる不満につながる。

2013年11月、ヴィクトルヤヌコビッチは、数年前から開発されており、ヤヌコビッチが以前に承認した条約である欧州連合との連合協定への署名を拒否しました。

代わりに、ヤヌコビッチはロシアとのより緊密な関係を支持した。

2013年9月、ロシアは、ウクライナが欧州連合との計画された自由貿易協定を進めた場合、財政的大惨事とおそらく国家の崩壊に直面するだろうと警告した。

セルゲイ・グラジエフ プーチン大統領の顧問は、「ウクライナ当局は、ロシアの反応が今後数年で中立になると考えると、大きな間違いを犯している。

これは起こらないだろう」と述べた。

ロシアはすでに特定のウクライナ製品に輸入制限を課しており、協定が署名された場合、グラジエフはさらなる制裁を除外しませんでした。グラジエフは、ロシア語を話すウクライナの東と南で分離主義運動が発生する可能性を考慮に入れました。

彼は、ウクライナが協定に署名した場合、それは国境を描くロシアとの戦略的パートナーシップと友情に関する二国間条約に違反するだろうと主張した。

ロシアはもはやウクライナの家としての地位を保証せず、国の親ロシア地域がロシアに直接訴えた場合、おそらく介入する可能性があります。

ユーロマイダン運動の一環としての数か月にわたる抗議の後、2014年2月21日、ヤヌコビッチと野党の指導者は、早期選挙を求める和解合意に署名しました。

翌日、ヤヌコビッチは弾劾投票に先立って首都から逃げ出し、大統領としての権力を剥奪された。

2月27日、暫定政府が樹立され、早期大統領選挙が予定されていた。

翌日、ヤヌコビッチはロシアでの、記者会見で、ロシアがクリミアでの明白な軍事作戦を開始したのと同じように、彼はウクライナの大統領代理であり続けると宣言した。

ウクライナのロシア語を話す東部地域の指導者たちは、ヤヌコビッチへの忠誠を継続すると宣言し、ウクライナで2014年の親ロシア不安を引き起こした。

2月23日、議会はロシア語に公式の地位を与える2012年の法律を廃止する法案を採択しました。

法案は制定されなかったが、提案はウクライナのロシア語圏で否定的な反応を引き起こし、ロシアのメディアはロシア民族の人口が差し迫った危険にさらされていると述べた。

その間、2月27日の朝、2月25日に解散したクリミアおよびウクライナの他の地域からのベルクト特別警察部隊がペレコップ島とチョンガル半島の検問所を押収した。

クリミア警察の元首長であるウクライナのMP、ヘンナディー・モスカルによれば、これらのベルクトには、装甲人員運搬車、グレネードランチャー、アサルトライフル、機関銃、その他の武器があった。

それ以来、彼らはクリミアとウクライナ大陸の間のすべての陸路交通を管理してきました。

2014年2月7日、リークされた宣伝により、キエフの米国ヨーロッパ・ユーラシア問題担当次官補ビクトリア・ヌーランドが次のウクライナ政府の構成に加担していることが明らかになりました。

ヌーランドは、米国大使のジェフ・パイアットに、ビタリ・クリチコが新政府に入るとは思わなかったと語った。

オーディオクリップは、ロシアのドミトリー・ロゴージン副首相の補佐官であるドミトリー・ロスクトフによって最初にツイッターに投稿されました。

2016年8月、ウクライナ保安庁（SBU）は、セルゲイグラジエフ（ロシア大統領顧問）、コンスタンチンザトゥリン、およびウクライナ東部の親ロシア活動家の秘密資金について話し合った他の人々の2014年からの電話傍受の最初のバッチを公開しました。

やがて武力紛争につながった管理棟の占領やその他の行動にグラジエフは傍受の信憑性を否定することを拒否したが、ザトゥリンはそれらが本物であるが「文脈から外された」ことを確認した。

2017年から2018年の間にキエフのオボロン裁判所でヤヌコビッチ前大統領に対する刑事手続中に証拠としてさらなるバッチが提示された。

早くも2014年2月、グラジエフはウクライナのさまざまな親ロシア政党に、ドネツク、ハリコフ、ザポリージャ、オデッサで不安を扇動するように直接指示していました。

グラジエフは、地方行政事務所を引き継ぐ必要性、彼らが引き継がれた後に何をすべきか、彼らの要求をどのように定式化するか、そして「私たちの男を送る」ことを含むロシアからの支援についてさまざまな約束をすることについて、さまざまな親ロシアに指示します。

2014年2月と3月に記録されたさらなる電話で、グラジエフは「半島には独自の電気、水、またはガスがない」と「迅速かつ効果的な」解決策は北への拡大であると指摘しています。

ウクライナのジャーナリストによると、これは、併合されたクリミアへの供給を確保するためにロシアが支配するノヴォロシアの傀儡国家を形成するためのドンバスへの軍事介入の計画が、紛争が実際に4月に始まるずっと前に議論されたことを示しています。

計画されたノヴォロシアの領土が、2004年にウクライナの親ロシアの政治家によって簡単に提案された南東ウクライナ自治共和国の以前の一時的なプロジェクトとの類似性を指摘する人もいました。

2014年3月4日、ロシアの国連常駐代表Vitaly Churkinは、2014年3月1日にViktor Yanukovichが署名した手紙のコピーを提示し、ロシアのウラジーミルプーチン大統領がロシアの軍隊を使って「法、平和、秩序の支配を回復する」よう求めました。

ウクライナの人口の安定と保護」。

ロシア議会の両院は、3月1日、プーチン大統領にクリミアでロシア軍を使用する権利を与えることを

決議した。

6月24日、ウラジーミル・プーチンはロシア議会にウクライナでのロシア軍の使用に関する決議を取り消すよう要請した。

翌日連邦院以前の決定を廃止することを決議し、ウクライナでロシアの組織された軍隊を使用することを違法にしました。〔

紛争が始まったとき、ロシアは黒海艦隊におよそ12,000人の軍人を擁しており、セヴァストポリ、カチャ、グヴァルデイスコエ、シムフェロポリスキー、サリチなどのクリミア半島のいくつかの地域にいた。

クリミアでのロシア軍の配置は一般に明確に開示されておらず、サリチ岬灯台の近くでの2005年の紛争のような、いくつかの事件につながった。

ロシアの存在は基礎と通過協定によって許可されましたウクライナと。合意によると、クリミアのロシア軍部隊は、最大25,000人の軍隊、ウクライナの主権を尊重し、その法律を尊重し、国の内政に干渉せず、彼らの「軍事身分証明書」を提示するという要件を含め、制約されていました。

国境を越え、指定された配備場所を超えてその作戦が許可されたのは、ウクライナの管轄機関との調整後のみでした。

紛争の初期には、協定のかなりの部隊制限により、ロシアは安全保障上の懸念を装って軍事的プレゼンスを大幅に強化し、クリミアでの作戦を遂行するために特殊部隊やその他の必要な能力を配備することができた。

1997年に署名されたソビエト黒海艦隊の分割に関する当初の条約によると、ロシア連邦は2017年までクリミアに軍事基地を置くことを許可され、その後、黒海艦隊の一部を含むすべての軍事ユニットを避難させなければなりませんでした。

クリミア自治共和国とセヴァストポリから。ノヴォロシースクで艦隊に帰国するロシアの建設プロジェクトは2005年に開始され、2020年までに完全に完了する予定でしたが、2010年の時点で、プロジェクトは大幅な予算削減と建設の遅れに直面していました。

2010年4月21日、ウクライナの前大統領ヴィクトル・ヤヌコビッチは、ハリコフ協定と呼ばれる新しい協定に署名し、滞在期間を2042年まで延長し、更新して、ロシア連邦から供給されるガスの割引を受けるオプションを提供しました。

カルキフ協定は、1990年代に両国の首相ヴィクトル・チェルノムイルディン（ロシア）とパブロ・ラザレンコ（ウクライナ）とボリス・エリツィン大統領（ロシア）とレオニード・クチマ（ウクライナ）の間で署名されたいくつかの基本的な条約の複合体の更新でした。

必要な非一次資料]ウクライナ憲法は、国土への外国基地の配備を一般的に禁止しているが、当初は暫定規定もあり、ウクライナの領土にある既存の軍事基地を外国の軍事組織の一時的な駐留に使用することを許可した。

これにより、ロシア軍はクリミアを「既存の軍事基地」として維持することができました。

既存の]基地に関する憲法の規定は2019年に取り消されたが、その時までにはロシアはすでにクリミアを併合し、一方的に基地条約から撤退していた。

クリミアを併合するというロシアの決定は2014年2月20日に行われました。

2月22日と23日、ロシア軍と特殊部隊はノヴォロシースクを經由してクリミアに移動し始めました。

2月27日、記章のないロシア軍がクリミア半島の支配権を握り始めた。

彼らは戦略的地位を獲得し、クリミア議会を占領し、ロシアの旗を掲げた。

セキュリティチェックポイントは、クリミア半島をウクライナの他の地域から切り離し、領土内の移動を制限するために使用されました。

翌日、ロシアの兵士は主要な空港と通信センターを確保した。

さらに、サイバー戦争の使用により、ウクライナ政府の公式ウェブサイトに関連するウェブサイト、ニュースメディア、およびソーシャルメディアが閉鎖されました。

サイバー攻撃はまた、今後数日間でウクライナの役人や国会議員の携帯電話を無効にするかアクセスを奪い、通信回線をさらに切断しました。

3月1日、ロシア議会は軍隊の使用を承認し、半島へのロシア軍と軍事ハードウェアの流入をもたらしました。

翌日、南部海軍基地を含む、残りのすべてのウクライナの軍事基地と施設が取り囲まれました。

ロシアが3月18日に半島を正式に併合した後、ウクライナの軍事基地と船はロシア軍によって攻撃されました。

3月24日、ウクライナは軍隊に撤退を命じた。

3月30日までに、すべてのウクライナ軍は半島を去りました。

4月15日、ウクライナ議会はクリミアを一時的にロシアが占領した領土と宣言しました。

併合後、ロシア政府はこの地域での軍事的プレゼンスを高め、核の脅威を利用して地上の新しい現状を固めた。

ロシアのプーチン大統領は、ロシアの軍事タスクフォースがクリミアに設立されると述べた。

11月、NATOは、ロシアがクリミアに核兵器を配備していると信じていると述べた。

2014年12月、ウクライナ国境庁は、ロシア軍がヘルソン州の領土から撤退し始めたと発表しました。

ロシア軍は、地理的にはクリミア半島の一部であるが、行政的にはヘルソン州の一部である、アラバトスピット周辺の島々の一部を占領しました。

HenicheskRaionの一部であるStrilkoveの村、ロシア軍によって占領されました。

村には重要なガス配給センターがありました。

ロシア軍は、テロ攻撃を防ぐためにガス配送センターを乗っ取ったと述べた。

その後、ロシア軍はヘルソン南部から撤退したが、ストリルコーブ郊外のガス配給センターを占領し続けた。

ヘルソンからの撤退は、この地域のロシアによる占領のほぼ10か月を終えた。

ウクライナの国境警備隊は、ロシアの占領下の地域は、彼らが彼らの位置に戻る前に、地雷がないかチェックされなければならないと述べました。

ウラジーミル・プーチンの元経済顧問であるアンドレイ・イリオノフは、2014年5月31日のNATOへのスピーチで、南オセチア紛争中に使用されたいくつかの技術が更新され、ウクライナで再び使用されていると述べた。

イリオノフによれば、クリミアでのロシアの軍事作戦は2014年2月20日に始まったので、ロシアのプロパガンダは、ロシアの攻撃がユーロマイダンの抗議の結果であると主張することはできませんでした。

イリオノフは、ウクライナでの戦争は「突然」起こったのではなく、事前に計画されており、準備は早くも2003年に始まったと述べた。

後に、ロシアの計画の1つが2015年にウクライナとの戦争を想定していると述べた。

大統領選挙後、しかしユーロマイダンの抗議は対立を加速させた。

ウクライナ南部と東部での最初の抗議は、主に新しいウクライナ政府に対する不満のネイティブな表現でした。

この段階でのロシアの関与は、デモへの支持の表明に限定され、ドネツクとルハンシクでの分離主義者の出現は、ロシアの支配から独立した抗議者の小さなフリンジグループとして始まった。

しかし、ロシアはこれを利用して、より広範なロシア・ウクライナ戦争の一環として、ウクライナに対する調整された政治的および軍事的キャンペーンを開始するだろう。

ロシアのウラジーミルプーチン大統領彼がドンバスを歴史的な「ニューロシア」（ノヴォロシア）地域の一部として説明したとき、初期の分離主義運動に正当性を与え、この地域がウクライナ人の創設により1922年にウクライナの一部になった方法として戸惑いの声明を発表しました。

ウクライナ当局が3月初旬に親ロシアの抗議を取り締まり、地元の分離主義者の指導者を逮捕したと

き、これらはおそらくロシアの諜報機関の命令によって、ロシアの治安機関とロシアの事業に関心を持つ人々に取って代わられた。

2014年4月までに、ロシア市民は分離主義運動を支配し、チェチェンとコサックの過激派を含むロシアからのボランティアと物資によって支援されました。

DPRの反乱軍司令官イゴール・ガーキンによれば、4月のこの支援がなければ、ハリコフやオデッサのように運動は崩壊したであろう。

ドネツク州の状況に関する論争のある国民投票が5月11日に開催された。

これらのデモは、ロシア連邦によるクリミアの併合に続き、ウクライナ南部と東部で同時に行われた親ロシアの抗議の幅広いグループの一部であり、ロシアが支援する自国の分離主義勢力間の武力紛争にエスカレートしました。

ドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国（それぞれDPRとLPR）、およびウクライナ政府を宣言しました。

2014年5月から8月までのドネツク人民共和国の首相は、ロシア市民のアレクサンドル・ポロダイでした。

2014年8月から、ドネツクとルハンシクのすべてのトップの地位はウクライナ市民によって保持されています。

ロシアの志願兵は、戦闘員の15%から80%を占めると報告されており、多くは元軍人であると主張している。

ドンバスの武装勢力の募集は、ロシアの都市で民間またはボイエコマットを使用して公然と行われた。

多くのロシアのメディアによって確認された。

ドンバスの経済的および物質的な状況は、地域に根ざした、内部的に引き起こされた武力紛争のための必要条件も十分条件も生み出していませんでした。

クレムリンの軍事介入の役割は、敵対行為の開始にとって最も重要でした。

3月下旬、ロシアはウクライナ東部国境近くで軍事力の増強を続け、4月までに30~40,000人の軍隊に達した。

展開は、エスカレートし、展開するイベントに対するウクライナの対応を妨害するために使用された可能性が高い。

クリミア併合後、ロシアが再びウクライナへの侵攻の準備をしている可能性があるという懸念が表明された。

この脅威により、ウクライナは強制配備を紛争地帯ではなく国境に向けることを余儀なくされた。

4月、ウクライナ東部で、ロシアが支援する分離主義勢力とウクライナ政府との間で武力紛争が始まります。

分離主義者たちは、ドネツク人民共和国とルハンシク人民共和国を宣言しました。

4月6日から、過激派は多くの都市の政府の建物を占領し、ロシアへの国境検問所、交通ハブ、放送センター、およびその他の戦略的インフラストラクチャを統治しました。

分離主義者の領土支配の継続的な拡大に直面して、4月15日、ウクライナ暫定政府は「対テロ作戦」(ATO)を開始しましたが、ウクライナの軍事および治安部隊は準備が不十分で位置が悪く、作戦はすぐに行き詰まりました。

4月末までに、ウクライナ政府は、ドネツクとルハンシクの州を完全に支配することはできず、ロシアの侵略と軍隊への徴兵の復活に対して「完全な戦闘警戒」を行っていることを発表した。

5月まで、ウクライナのキャンペーンは、ウクライナの全国的な動員が完了した後、反政府勢力の飛び地に対する決定的な攻撃のために軍隊を配置するために ETO ゾーンの周りの重要な位置を確保することによって分離主義者を封じ込めることに焦点を当てた。

5月に分離主義者とウクライナ政府との紛争が激化するにつれ、ロシアは「ハイブリッドアプローチ」を採用し始め、偽情報戦術、不規則な戦闘機、通常のロシア軍、および分離主義者を支援しドンバス地域を不安定化させるための従来の軍事支援を組み合わせることで展開しました。

ウクライナの大統領選挙に続くドネツク空港の最初の戦いは、紛争のターニングポイントを示した。

これは、分離主義者とウクライナ政府との間で、大量のロシア人ボランティアが関与した最初の戦いでした。

ウクライナ政府によると、2014年夏の紛争の最盛期には、ロシアの準軍組織が戦闘員の15%から80%を占めると報告されました。

6月から、ロシアは武器、および軍需品を分離主義勢力に騙し取った。

6月から7月にかけて、ATOの作戦はその数と空軍力を利用して着実に取り囲み、ドンバスのいくつかの町と重要な地位を奪還する分離主義者を押し出しました。

7月17日、ロシアのBuk対空ミサイルがマレーシア航空17便を撃墜しました。

283人の乗客全員と15人の乗組員が殺されました。

7月末までに、彼らはドネツクとルハンシクの都市に押し込み、2つの間の供給ルートを遮断し、ドネツクを孤立させ、ロシアとウクライナの国境の支配を回復しようと考えました。

7月28日までに、Savur -Mohylaの戦略的な高さは、重要な鉄道ハブであるDebal'tseveの町とともに、ウクライナの支配下に置かれました。

ウクライナ軍のこれらの作戦上の成功は、ロシアが支援するDPRおよびLPRステートレットの存在そのものを脅かし、7月中旬以降、自国の地でウクライナ軍を前進させることを目的としたロシアの国境を越えた砲撃を促した。

アメリカとウクライナの当局者は、ロシアの当局者とドンバスの武装勢力との間の傍受された通信を含む、ウクライナへのロシアの干渉の証拠があると述べた。

ウクライナのメディアは、クリミア危機の間にクリミアの地域を占領したものと同様に、よく組織され、武装した親ロシアの過激派を説明しました。

ウクライナ軍参謀本部の元副首席補佐官、イホル・カバネンコ提督は、過激派はロシアの軍事偵察および妨害部隊であると述べた。

アルセン・アバコフは、クラスニ・ライマンの過激派がグレネードランチャーを装備したロシア製のAK-100シリーズアサルトライフルを使用し、そのような武器はロシア連邦でのみ製造されていると述べた。

ウクライナ政府は、今日の事実をロシアによる外部からの攻撃の現れと見なしているとアバコフは述べた。

スラビャンスクの過激派は、ナンバープレートなしで軍用トラックに到着した。

アフデエフカの分離主義砲兵隊を訪問したロシアのノヴァヤ・ガゼタの記者は、オブザーバーや調整の専門家を含む訓練を受けた経験豊富なチームを必要とするため、「大砲をボランティアが扱うことは不可能だ」と述べた。

ニューステイツマンの特派員であるデビッド・パトリカラコスは次のように述べています。

プロの軍隊がここにいます。

コウモリや棒で地元の軍隊が散らばっているのが普通ですが、軍隊の存在もあります。

それは間違いありません。

元アメリカ国家安全保障補佐官のズビグネフ・ブルゼジンスキーは、ドンバスでの出来事はクリミアでの出来事と類似しており、それがロシアによる併合につながったと述べ、ロシアも同様に行動したと述べた。

2014年4月、米国国務省のスポークスウーマン、ジェン・サキは、「ロシアとウクライナ東部の武装過激派の一部との関係について、国際社会は広く団結している」と述べた。

ウクライナ政府は、ウクライナ東部の兵士の写真を公開した。

米国務省は、戦闘機の一部がロシアの特殊部隊であることを示したと述べた。ジョン・ケリー米国務長官は、過激派は「クリミアに侵攻したロシア軍が着用したものと同一特殊なロシアの武器と同じ制服を装備していた」と述べた。

米国際連合大使スラビャンスクでの攻撃は「専門的」で「協調的」であり、「草の根は何も見えなかった」と述べた。

英国の外務大臣ウィリアム・ハーグは、ロシアの関与の否定が信頼性の断片を持っているとは思わない、関与する軍隊は、十分に武装し、十分に訓練され、十分に装備され、よく調整され、ロシア軍がクリミアで行動したことが判明したのとまったく同じ方法です。

ヨーロッパでのNATO作戦の指揮官、フィリップ・M・ブリードラブ、兵士は高度に訓練されており、自発的に形成された地元民兵ではないようであり、「ウクライナ東部で起こっていることは、よく計画され組織化された軍事作戦であり、ロシアの方向で行われていると評価している。

ニューヨークタイムズのジャーナリストはスロビャンスクの過激派にインタビューし、ロシアの支援の明確な関連性を発見しませんでした。

ドネツク人民共和国のソビエト人民共和国の自己宣言議長であるデニス・プシーリンは、反乱軍の階級内にポストーク大隊が存在することについてコメントし、そして今、彼らはロシアからだけでなく、到着し始めています。

かなりの数のロシア市民、多くの退役軍人または超国家主義者が現在進行中の武力紛争に関与しており、この事実は分離主義者の指導者によって認められています。

マサチューセッツ工科大学の安全保障研究プログラムのロシアの専門家であるキャロル・サイベッツは、ロシアの兵士の役割を「ほぼ確実に」ロシア国家の祝福と支援を進めていると述べた。

ロシアのプーチン大統領がウクライナ南東部を表すために使用したノヴォロシアの旗の下で団結したドネツクとルハンシクの分離主義者に対する一連の軍事的敗北と挫折の後、ロシアはそれが「2014年8月中旬にロシアとウクライナの国境を越えたトラックの人道的船団。ウクライナはそれを「直接侵略」と呼ぶことでこの動きに反応した。

ウクライナ国家安全保障国防会議は、これらの護送船団の数と内容に関する報告書を発表し、11月にはほぼ毎日到着し（11月30日には最大9隻の護送船団）、その内容は主に武器と弾薬であると主張しました。

合計で、11月には、ロシアからドンバスまで国境を越える1,903台のトラック、兵士またはボランティアを乗せた20台のバス、402台の装甲兵員輸送車、256台の戦車、138台の「グレード」ランチャー、42台の大砲とハウイツァー、35台の自走砲がありました。

「ブク」ランチャー5台、「ウラガン」ランチャー4台、「ブラティーノ」火炎放射器4台、ポンツーンブリッジトラック6台、「タラン」無線迎撃システム5台、装甲回収車5台、ラジオロケーションシステム3台、トラッククレーン2台、トラックレイヤー車両1台、1台ラジオロケーションステーション、不明な数の「Rtut-BM」。

8月初旬、イゴール・ストレルコフによれば、おそらく軍隊からの休暇中のロシア軍人がドンバスに到着し始めた。

2014年8月までに、ウクライナの反テロ作戦は、親ロシア軍の支配下で領土を大幅に縮小することができ、ロシアとウクライナの国境の支配を取り戻すことに近づきました。

イゴール・ガーキンはロシア軍の介入を促し、ドネツク州の地元住民の間での徴兵の困難に加えて、彼の非正規軍の戦闘経験不足が挫折を引き起こしたと述べた。

彼はロシアのプーチン大統領に宛てて、プーチン大統領が個人的にニューロシアと名付けた領土でこの戦争を失うことは、クレムリンの力、そして個人的には大統領の力を脅かすだろう」と述べた。

ドンバスの悪化する状況に対応して、ロシアはそのハイブリッドアプローチを放棄し、この地域への通常の侵略を開始した。

この侵略の最初の兆候は、2014年8月25日、ウクライナ保安局（SBU）によるウクライナ領土での活発な任務に従事しているロシア空挺部隊のグループの捕獲でした。

SBUはそれらの写真とその名前を公開した。

翌日、ロシア国防省は、これらの兵士が偶然に国境を越えたと述べた。

ニコライ・ミトロキンの推定によれば、2014年8月中旬までにイロヴァイスクの戦いが行われた。

分離主義者側のドンバスで戦っている軍隊は20,000から25,000人であり、40%から45%だけが地元住民でした。

ジャーナリストのティム・ジューダがニューヨーク・レンジャースに書いた2014年8月の最後の週にウクライナ南東部でウクライナ軍が被った荒廃の規模についてのブログは、壊滅的な敗北に相当し、彼らの歴史の中で最も暗い日々の中で、憤慨したウクライナ人によって長い間記憶されるだろうと述べた。

いくつかの待ち伏せで達成された破壊の規模は、「親政府軍を攻撃する人々は非常に専門的であり、非常に強力な武器を使用していることを明らかにした。

イロヴァイスクでの戦闘は8月7日、ウクライナの3人のボランティア民兵と警察が反乱軍の支配から取り戻そうとしたときに始まった。

その後、8月28日、反政府勢力の長であるギビ司令官によると、反政府勢力はドネツクを含む他の場所からの支援を受けて大規模な攻撃を開始することができました。

9月1日までにそれはすべて終わり、ウクライナ人は決定的に敗北しました。

ギビ司令官は、待伏せされた部隊は、チェコ人、ハンガリー人、および「ニガー」を含む外国人によって数が増加した通常の兵士ではなく、民兵であると述べた。

8月13日、ロシア人権委員会のメンバーは、ウクライナでの戦闘で100人以上のロシア兵が殺害されたと述べ、彼らがそこにいる理由を尋ねた。

8月14日、ロシア軍の公式プレートを備えた装甲兵員輸送車を含む軍用車両の護送船団が、過激派が支配するイズヴァリン国境近くでウクライナに渡った。

ウクライナ政府は後に、大砲で装甲柱の大部分を破壊したと発表した。

NATOのアンダース・フォグ・ラスムッセン事務総長は、この事件は「ウクライナ東部の不安定化へのロシアの継続的な関与の明確な実証」であると述べた。

同日、ロシアのプーチン大統領は、クリミアを訪問した際にロシアの大臣とクリミア国会議員に話しかけ、ウクライナでの紛争を終わらせるためにできる限りのことをすることを約束した。

それは他の世界からそれを隔離しました。

コメントは、ロシアに対する国際制裁が強化されていたときに発表されました。

複数の報告は、分離主義民兵が政府軍のテーブルを回すことを可能にする補強を受けていたことを示した。

ロシアから来た装甲柱もドネツク州南部に押し込まれ、ノボアゾフスクの町を占領し、ウクライナ軍と衝突し、ドンバス紛争で新たな戦線を開いたと伝えられている。

2014年8月22日、NATO当局によると、ロシアは自走砲をウクライナの領土に移動させた。

2014年8月24日、ウクライナのペトロポロシェンコ大統領は、反テロ作戦（ATO）をウクライナの2014年の愛国心が強い戦争」および「外部からの攻撃」との戦いと呼びました。

ウクライナ外務省は、2014年8月27日に紛争を侵略と発表した。

コストロマの軍事ユニット71211である第331警備隊空挺連隊の10人のロシア空挺部隊がゼルカルネで捕らえられた。

その日、彼らの装甲車両がウクライナの大砲に襲われた後、国境から20 km（12マイル）のアムウローシフカ近くの村だ。

8月25日、ウクライナ保安庁は、捕らえられた空挺部隊について、8月23日の夜にウクライナの国境を越えたと主張して報告した。

SBUも写真と名前を公開した。

翌日、ロシア国防省は、彼らが偶然に国境を越えたと述べた。

8月25日、ロシアの戦車と軍用車両の列が、アゾフ海沿岸にあるノボアゾフスクの町の近くの南東のウクライナに渡り、ウクライナが保有するマリウポリに向かったと報告された。

何週間も親ロシアの存在を見ていなかった地域で、ベリングキャットの調査は、この操作のいくつかの詳細を明らかにしている。

ロシア軍がノボアゾフスク市を占領した。

そしてロシアの兵士は、町内に住所が登録されていないすべてのウクライナ人を逮捕し、未知の場所に強制送還し始めました。

ロシア軍によって脅かされたマリウポリで、親ウクライナの反戦抗議が行われた。

国連安全保障理事会は、状況を議論するために緊急会議を召集した。

2014年8月26日、少なくとも3つのT-72B1と1つのT-72BMで構成される混合カラムが、国際戦略研究所によるウクライナのスペルドロフスクからのビデオで特定されました。

この目撃は、分離主義者への戦車やその他の武器の供給の問題についてもっともらしい否認を維持しようとするロシアの試みを弱体化させた。

ロシアは、分離主義者によって運用された戦車は、ウクライナ自身の軍隊から捕獲されたに違いないと継続的に主張した。

T-72BMは、ロシア軍に多数使用されています。

この近代化されたT-72は、他の国に輸出されたり運営されたりしたことは知られていない。

ロイターは、10月にホルバテンコの近くでこのタイプの他の戦車を発見した。

11月、ウクライナにある英国大使館は、ウクライナ軍が保有する戦車に存在しない分離主義者が使用するT-72戦車の特定の機能を示すインフォグラフィックも公開し、「ロシアが自国の戦車を認識するのを支援する」と述べています。

機器には、たとえば、2007年から2012年の間にロシアに輸出されたタレスオプトロニクスサーマルビジョン機器が含まれていました。

8月27日、ドネツクとルハンシクの親ロシア分離主義者を支援するために2列のロシア戦車がウクライナ領土に入り、ウクライナ国境軍と交戦したが、米国当局はロシアがウクライナに侵攻し始めたと言明することを躊躇した。

NATO当局は、1,000人以上のロシア軍がウクライナ国内で活動していると述べたが、この事件を侵略と呼んだ。

ロシア政府はこれらの主張を否定した。

NATOは、ウクライナの領土内にロシア軍が存在することを示していると述べた衛星写真を公開しました。

親ロシアの分離主義者たちは、ロシア軍が彼らと一緒に戦っていたことを認め、これは「秘密ではない」と述べたが、ロシア軍は「ビーチで」ではなくウクライナで戦うことを好む兵士にすぎなかった。

自称ドネツク人民共和国の首相は、3,000人から4,000人のロシア軍が分離主義勢力で戦ったが、そのほとんどはウクライナで戦い続けたため、ロシアに戻らなかったと述べた。

8月28日、委員会のメンバーは、ウクライナの土壌にロシア軍が駐留していることを「完全な侵略」と呼んだ。

同日、ウクライナは国の強制徴兵を命じた。

NATOの危機管理センターの責任者であるオランダの准将ニコ・タックは、「現在、1,000人以上のロシア軍がウクライナ国内で活動している」と述べた。

8月下旬、NATOは、洗練された兵器を備えたウクライナ国内でのロシアの作戦の証拠と見なされる衛星画像を公開し、9月初旬までにウクライナ軍が後退した後、ロシアが兵士を送ったことは明らかでした。

国境と地元住民は、運命の逆転をもたらすプーチンとロシアの兵士の役割を認めた。

8月29日、ウクライナ軍がイロヴァイスクの降伏に合意した後、彼らは「緑の回廊」を通過して避難している間にロシア軍に砲撃されました。

白旗でマークされた軍隊への攻撃は、虐殺と表現されました。

少なくとも100人が死亡した。

ウクライナ軍のスポークスマンAndriyLysenkoによると、8月29日から30日頃、ロシアの戦車がルハンシクの郊外の村であるNovosvitlivkaのすべての家を破壊した。

8月31日、ロシアのメディアは、ウクライナ国内で捕らえられた10人のロシア空挺部隊が軍の交換後に帰国したと報じた。

交換で提供されたウクライナ軍は、戦闘の急増から逃れるためにロシアに入った後に捕らえられました。

ロシアは、ロシア軍がパトロール中に誤って国境のマークされていないエリアを越えたと主張した。

ウクライナは、紛争とは何の関係もないというロシアの主張に異議を唱え、捕らえられたロシアの兵士のビデオを公開した。

プスコフに本拠を置く第76親衛空挺師団は、8月にウクライナ領土に入り、ルハンシク近郊で小競り合いを行い、80人が死亡したとされている。

ウクライナ国防省は、ルハンシク市の近くで部隊の装甲車両2台を押収したと述べ、他の地域で破壊された親ロシア軍の別の3台の戦車と2台の装甲車両について報告した。

ロシア政府は小競り合いが行われたことを否定したが、8月18日、第76親衛空挺師団はロシア国防大臣セルゲイ・ショイグからロシア最高の賞の1つであるスウォーロフ勲章を授与された。

「軍事任務の成功」と「勇気と英雄」のために。

ロシアのメディアは、メダルは戦闘作戦にのみ授与されることを強調し、この部門の多数の兵士が数日前にウクライナで死亡したと報告したが、彼らの埋葬は秘密裏に行われた。

Pskovskaya Guberniyaなどの一部のロシアのメディアは、ロシアの空挺部隊がウクライナで殺害された可能性があるとして報じた。

ジャーナリストは、調査のために、軍の埋葬場所として報告されているプスコフを訪れた。

複数の記者は、そこで攻撃または脅迫されており、攻撃者はいくつかのカメラのメモリーカードを消去したと述べた。

Pskovskaya Guberniyaは、ウクライナでの戦闘中に受けた傷のためにPskov病院で治療を受けているロシアの兵士間の電話での会話の記録を明らかにしました。

兵士たちは彼らが戦争に送られたことを明らかにしたが、彼らは「演習」を行っていると言われ、彼らの将校から言われた。

ベリングキャットによると、ウクライナの国境を越えるロシアの軍用車両とウクライナの国境に近い砲兵の位置は、2014年8月23日からの衛星写真でははっきりと見えます。

ベリングキャットの寄稿者は、ロシア北部艦隊の関与を明らかにする一連の調査を発表しました。

ルハンスク地域での戦闘に参加した沿岸部隊ユニット、第200モーターライフル旅団と第61海軍歩兵旅団：第200モーターライフル旅団の軍隊はルハンスク空港の戦いで戦った、そして10月の後半に32番目のチェックポイントの衝突。

第61海軍歩兵旅団の海兵隊員がルハンシクで発見され、近くの村での戦闘に参加した。

ロシアの上院およびロシア国営テレビチャンネルのスピーカーは、ロシアの兵士がウクライナに入ったことを認めたが、彼らをボランティアと呼んだ。

ロシアの野党新聞であるNovayaGazetaの記者は、ロシア軍の指導部が2014年の初夏に任務を辞任し、ウクライナで戦うために兵士に支払いをした後、ウクライナに兵士を命じ始めたと言った。

この記者は、拒否した兵士が起訴されると脅されたときの少なくとも1つの事件の知識に言及した。

ロシアの野党議員LevShlosbergは、自国の戦闘員は通常のロシア軍であり、DPRとLPRの部隊を装っていると述べたが、同様の声明を出した。

2014年9月初旬、ロシアの国営テレビチャンネルは、ドンバス戦争中にウクライナで亡くなったロシア兵の葬式について報じたが、彼らを「ロシアの世界」のために戦うボランティアと表現した。

統一ロシアの与党のトップ政治家であるワレンチナ・マトビエンコも、ウクライナに言及して、「私たちの兄弟国家」で戦っている「ボランティア」を称賛した。

ロシアの国営テレビは、ウクライナ東部での戦闘で殺害された兵士の葬式を初めて放映しました。

国営テレビ局のチャンネル1は、ロシア中部の都市コストロマで空挺部隊のアナトリー・トラフキンが埋葬されたことを示しました。

放送局は、トラフキンが政府軍と戦っている親ロシアの反政府勢力と一緒に戦うという彼の決定について彼の妻や司令官に話していなかったと言った。

公式には彼はちょうど休暇をとったとニュースリーダーは言った。

Lindsey Hilsumは、チャンネル4のニュースブログで、9月初旬にDmytrivkaのウクライナ軍がロシアのBM-30Smerchロケットから攻撃を受けたと書いています。

9月4日、彼女は、ルハンシクを数週間砲撃していたウクライナ軍が西に後退し、重装甲のロシア兵が反乱軍を支援するために国境を越えたと報じられたという噂を書いた。

ヒルサムはルハンシク国際空港の完全な破壊についても書いたこれは、おそらくロシア人が「流れを変える」ことを決定したために、ウクライナ軍がルハンシクを砲撃するための基地として使用されていました。

ターミナルビルと周りのすべてが完全に破壊されました。

反政府勢力の側で戦っていたアゼルバイジャン、ベラルーシ、タジキスタンからの軍隊は、彼ら自身が撮影されることを許可しました。

2014年9月3日、Sky Newsチームは、ロシアのユニットに典型的なモダンコンバットギアを身に付け、ナンバープレートやその他のマーキングを取り除いた新しい軍用車両で移動するノボアゾフスク近郊の軍隊を撮影しました。

ジャーナリストが相談した専門家は、ロシア陸軍と空挺部隊が現在使用している機器の部品（ユニフォーム、ライフル）を特定しました。

また、9月3日、ウクライナのポロシェンコ大統領は、ロシアのプーチン大統領と「恒久的停戦」合意に達したと述べた。

ロシアは停戦合意が行われたことを否定し、紛争の当事者であることをまったく否定し、「彼らは紛争を解決する方法についてのみ話し合った」と付け加えた。

その後、ポロシェンコは合意についての彼の以前の声明から戻った。

OSCEは初めて、「ウクライナと国境を接している東部と南東部からの口径の軽い射撃と重い射撃」を報告しました。

報告書はまた、OSCEオブザーバーチームは、LPRとノヴォロシアのシンボルと旗を持ったものを含め、両方向に国境を越える軍隊スタイルの服を着た男性の増加を見て、負傷者がロシアに輸送されていると述べた。

Mick KreverはCNNブログに、9月5日にロシアのOSCE常駐代表であるアンドレイ・ケリンは、マリウポリを「解放しようとしている」のは当然の親ロシアの分離主義者であると述べたと書いています。

ウクライナ軍は、ロシアの諜報機関がこの地域で発見されたと述べた。ケリンは「あそこにボランティアがいるかもしれない」と言った。

2014年9月4日、NATOの将校は、ウクライナで数千人の正規のロシア軍が活動していると述べた。

2014年9月5日、ミンスク議定書と呼ばれる停戦協定により、ウクライナと、国の南東部にあるドネツクおよびルハンシク州の分離主義者が支配する部分との間に境界線が引かれました。

2014年9月12日、ガーディアンはLutuhyneでロシアの装甲兵員輸送車を見ました。

翌日、モスクワがキエフの同意なしにウクライナに「援助」を届けるトラックの護送船団を送ったと報じられた。

この護送船団は、ウクライナによる検査もICRCの同伴もありませんでした。

停戦協定が成立した後、ウクライナのトップ指導者たちは護送船団についてほとんど沈黙を守った。

「援助」は12ポイントのミンスク合意の一部でした。

2014年12月、ウクライナのハッカーは、ロシア内務省（MID）のハッキングされたサーバーから送信されたとされる大量のドキュメントのキャッシュを公開しました。

文書は、地方警察、道路警察、救急隊など、MIDによって調整されたさまざまな部門から発信されました。

キャッシュには、8月25日にロストフ地域の病院に到着したロシア軍の死傷者を説明する文書が含まれていました。

ウクライナ側が同日に報告したクラスナヤ・タロフカでの戦闘と一致した。

11月7日、NATO当局は、32両のロシア戦車、16門の榴弾砲、30両の軍隊がウクライナに侵入し、ウクライナへの侵攻が続いていることを確認した。

11月12日、NATOはロシア軍の蔓延を繰り返した。

米国のフィリップ・ブリードラブ将軍は、「ロシアの戦車、ロシアの大砲、ロシアの防空システム、ロシアの戦闘部隊」が目撃されたと述べた。

国連へのリトアニアの使節団は、ウクライナに対するロシアの「宣戦布告なき戦争」を非難した。

ジャーナリストのメナヘム・カハナは、ドネツクの東、トレスにある1RL232「ヒョウ」戦場監視レーダーシステムを示す写真を撮りました。

オランダのフリーランスジャーナリスト、Stefan Huijboomが写真を撮り、1RL232が1RL239「Lynx」レーダーシステムで移動している様子を示しました。

戦闘後に残された戦車と車両の燃え尽き症候群は、ロシアの関与のさらなる証拠を提供するように見えた。

AP通信は、反政府勢力が支配する地域で移動中の80台のマークされていない軍用車両を報告しました。

3つの別々の柱が観察されました。

1つはドネツクの主要な分離主義者の拠点の近くで、2つはスニジネの町の外にあります。

トラックのいくつかは軍隊を運んでいるように見えました。

OSCEはさらに、ロシアとウクライナの国境を越えて兵士の死体を輸送するために使用されたとと思われる車両を監視しています。

2015年1月23日、兵士の母の委員会は、徴兵制がウクライナ東部に送られることについて警告した。

NATOは、ウクライナ東部でロシアの戦車、大砲、その他の重装備品が増加したと述べ、モスクワに軍隊を撤退させるよう呼びかけた。

ユーラシア戦略情報センターは、「これらの部隊から捕らえられた軍人の公式声明と尋問記録、衛星監視データ」、および親戚からの検証された発表とソーシャルネットワークのプロファイルに基づいて、30以上のロシア軍部隊が参加していると推定した。

合計で、8,000人以上の兵士がそこで戦っていました。

シカゴ国際関係会議2014年半ばに高度な軍事システムが大量に流入して以来、ロシアの分離主義者はウクライナ軍よりも技術的な利点を享受していると述べた。

効果的な対空兵器（「Buk」、MANPADS）はウクライナの空爆を抑制し、ロシアのドローンは情報を提供し、ロシアは安全通信システムは、通信インテリジェンスからウクライナ側を妨害しました。

ロシア側はまた、ウクライナに欠けていた電子戦システムを頻繁に採用した。

ロシアの分離主義者の技術的利点に関する同様の結論は、紛争研究センターによって表明されました。

2014年11月、イゴール・ガーキンが極右のナショナリスト新聞ザヴトラに長いインタビューを行い、ドンバスでの紛争の始まりについての詳細を初めて発表しました。

ガーキンによれば、彼は「戦争の引き金を引いた」人物であり、ロシアによるクリミアの買収だけでは「意味がなく」、ノヴォロシアの一部としてのクリミアは「王冠の宝石になる」ために必要でした。

ガーキンはセルゲイ・アクショノフによってドンバスに向けられていたそして彼は4月に52人の将校のグループと共にウクライナに入り、最初はスラビャンスク、クラマトルスク、そして他の都市を占領した。

ガーキンはまた、分離主義勢力が敗北に近づき、ロシアの「脱退者」（「休暇中の兵士」の皮肉な用語）の迅速な介入だけが彼らを救った8月の状況について話しました。

彼らの軍隊はマリウポリの包囲でも指揮を執った。

プーチン大統領は、ウクライナのロシア兵を兵役を遂行するものとして公式に認めず、殺害された場合に家族を収入源なしに残すというロシア政府の政策に対する内部の批判に応じて、10月に家族に毎月の報酬。2つの新しい資格カテゴリが追加されました。

分離主義者の側でボランティアとして戦ったロシアのズラトウースト市の副官であるアレクサンドル・ネグレベツキーは、インタビューで「地元の人々はロシアに逃げる。

彼らは自分たちの土地を守ることに消極的であるため、ここに来なければならない」と不満を述べた。

その結果、彼の分離は90%のロシア人と、ドネツクからのわずか10%の地元住民で構成されていました。

11月、Lev Shlosbergは、8月にウクライナで殺害されたプスコフ空挺部隊の状況について尋ねた質問に対する軍事弁護士事務所からの回答を発表しました。

事務所は、兵士が「彼らの恒久的な転位ユニットの外で兵役を遂行している」（プスコフ）間に死亡したと答えたが、彼らの命令または死亡地に関するそれ以上の情報は「分類された」として差し控えられた。

政治専門家のアレクセイ・マカルキンは、ソビエト連邦が犠牲者の規模を隠そうとしたときにソビエト国防省が提供した回答とこれらの回答を比較しました。

国連安全保障理事会の会合では、ロシア軍とウクライナ領土での戦争に関する多数の報告が提起されました。

11月12日の会議で、英国の代表はまた、ロシアがOSCE天文台ミッションの能力を意図的に制限していると非難し、オブザーバーはウクライナとロシアの間の2 kmの国境のみを監視することが許可されており、能力を拡張するために配備されたドローンは詰まっている、または撃墜されている。

11月、Armament Research Servicesは、紛争の両側で使用された武器に関する詳細なレポートを公開し、多数の「旗のアイテム」を文書化しました。

車両の中で、彼らはT-72Bモデル1989およびT-72B3戦車、モデルBTR-82AM、MT-LB 6MA、MT-LBVM、およびMT-LBVMKの装甲車両、およびOrlan-10ドローンと1RL239レーダーの存在を記録しました。

車両。弾薬の中で、彼らは9K38 Iгла（製造日2014）、ASVKライフル（2012）、RPG-18ロケットランチャー（2011）、95Ya6ロケットブースター（2009）MR0-A（2008）、9M133Kornetを記録しました。

対戦車兵器（2007）、PPZRグロム（2007）、MON-50（2002）、RPO-A（2002）、PKP（2001）、OG-7（2001）、VSSライフル（1987）。

これらの兵器は、主にロシアで製造され、紛争地帯で親ロシアの分離主義者によって使用されましたが、「敵対行為が発生する前にウクライナ政府の目録にあった」ことはありませんでした。

報告書はまた、ポーランドで生産され、ウクライナに輸出されたことのないPPZR GromMANPADの使用についても言及しています。

しかし、それらは2007年にジョージアに輸出され、その後、2008年のロシア-ジョージア戦争中にロシア軍によって捕獲されました。

また、11月には、Pantsir-S1ユニットが、UAFの在庫の一部ではなかったノボアゾフスク近くの分離主義者が管理する地域で観察された。

Bellingcatは、紛争の両側に固有の軍用車両の地理的に配置された画像の専用データベースを維持しており、主にウクライナの領土で見つかったロシアの軍事機器に焦点を当てています。

1月、ドネツク、ルハンシク、マリウポリは、ウクライナがロシアによって武装、訓練、支援されたとされる軍隊によって圧迫された3つの戦線を代表する3つの都市でした。

2015年1月初旬、明らかにウクライナ国内のルハンシクにあるBPM-97の画像は、ウクライナ国内のロシア軍用車両のさらなる証拠を提供しました。

ポロシェンコは1月21日、200台の戦車と装甲兵員輸送車とともに、2,000人以上のロシア軍が国境を越えたという報告の中で危険なエスカレーションについて話しました。

彼は、状況の悪化を懸念して、ダボスで開催された世界経済フォーラムへの訪問を省略しました。

1月29日、ウクライナの将軍ヴィクトル・ムジェンコの首長は、「ウクライナ軍はロシアの通常部隊との戦闘作戦に従事していない」と述べたが、彼はロシアの民間人および軍人が違法な武装集団と一緒に戦っているという情報を持っていた。

1月28日のDPR管理地域からの報告によると、OSCEは、ドネツクの東にあるハルツィスクの郊外で、「東向きの5台のT-72戦車の列と、その直後に東に移動する4台のT-72戦車の列」を観測しました。

マークのない軍用トラック4台、タイヤURALが付いていた同じ道路。すべての車両と戦車にはマークが付いていませんでした。

それは、帆布で覆われた、マークされていない軍用トラックの激しい動きについて報告しました。

マリウポリの住宅地の砲撃後、NATOのイェンス・ストルテンベルク「ウクライナ東部のロシア軍は指揮統制システム、高度な地对空ミサイルを備えた防空システム、無人空中システム、高度な多連装ロケット発射システム、および電子戦システムを使用して、これらの攻撃作戦を支援しています。

7人の母親であるSvetlana Davydovaは、ロシア軍の動きについてウクライナ大使館に電話したことで反逆罪で告発され、2015年1月27日に逮捕されました。

まだ拘留中です。

ロシア軍参謀本部は、事件の詳細が「国家機密」を構成すると述べた。

2015年2月9日、ムルマンスクからの20人の契約兵士のグループが、ロシア国防省に対して、「ロストフ地域に行き、おそらくウクライナ国境を越え、兵士たちは人権活動家に通知し、書面で命令を要求しましたが、彼らには与えられませんでした。

2月13日、若い兵士のイリヤ・クドリャフツェフが家に電話し、親戚にロストフ・オン・ドンへの任務に派遣されることを知らせた後、死んでいるのが発見された。

ウクライナ。彼はひどく殴打されたが、彼の死は公式には自殺に分類された。

1月の米国のトップ将軍によると、ロシアが供給したドローンと電子妨害により、ウクライナ軍は親ロシアの過激派による砲撃に対抗するのに苦労している。

「反政府勢力は、反政府勢力にウクライナ軍を標的とする検出能力と能力を与えているロシア提供のUAV（無人航空機）を持っています」

高度な電子妨害は、OSCEのオブザーバーによって何度も報告された。

2月、ウクライナ側とDNR側の両方が、紛争の両側と住宅地で発砲した未知の妨害グループを報告し、彼らを「第3の部隊」と呼んだ。

SBUは傍受された電話を発表し、DNRの司令官は、そのようなグループがロシアのパスポートと軍事文書で逮捕されたと報告した。

DNRは、そのようなグループが実際に停止され、「破壊された」ことを確認したが、「ロシア連邦の軍隊の信用を傷つけるために働いているウクライナの妨害グループ」と呼んだ。

ヨーロッパの米陸軍司令官ベン・ホッジスは2015年2月に、「弾薬の量、装備の種類から、デバルツェベ地域への直接のロシア軍の介入があることは非常に明白である」と述べた。

2月のシカゴ国際関係会議の推定によると、ロシアの分離主義者は約36,000人の軍隊を擁し（34,000人のウクライナ人と比較して）、そのうち8,500~10,000人は純粋にロシアの兵士である。

さらに、約1,000人のGRU部隊がこの地域で活動しています。

軍事専門家のイリヤ・クラムニクによれば、ウクライナ軍の総数はロシア軍を2倍上回っている（2万人のロシア分離主義者対4万人のウクライナ）。

2015年2月、独立したロシアの新聞Novaya Gazetaは、ヴィクトル・ヤヌコビッチが権力を奪われウクライナが崩壊した場合の戦略をロシア政府に提供した。

オリガルヒのKonstantinMalofayevらによって書かれたとされる文書を入手しました。

可能性が高いと考えられた。

文書は、クリミアと国の東部の併合の計画を概説し、ヤヌコビッチの陥落後に実際に続いた出来事を詳細に説明しています。

文書はまた、ロシアの行動を正当化しようとする広報キャンペーンの計画を説明した。

2015年3月、Novaya Gazetaは、デバルツェボの戦いで戦車を操作して負傷したロシアの兵士、munkuevへのインタビューを公開しました。

彼は、戦車がロシアのウランウデにある彼の軍事部隊から来たものであり、彼の部隊が「鉄道のプラットフォームにすぐにシリアル番号と部隊の標識を塗りつぶした」ことを確認した。

2014年11月、バトムクエフは徴兵としてロストフオンドンに送られ、そこで契約兵士になりました。

ウラン・ウデから自分の部隊と一緒に電車で旅行しているバトムクエフ氏は、「そのような電車がたくさん」一緒に「毎日」移動しているのを見たと言った。

コスミンスキー訓練施設で3か月間過ごした後、31両の戦車と、合計300人の兵士（主にブリヤート人の部隊）は2015年2月8日に移動するように命令され、夜にウクライナの国境を越え、朝にドネツクに到着しました。

彼らは2月12日から14日にかけて戦闘に参加しました。

ジョセフ・コブゾンは、NGインタビューの数日前に同じ病院でバトムクエフに会った。

2016年、デバルツェボの戦いで負傷した別のロシア兵であるアレクサンダーミナコフは、「祖国への奉仕のために」メダルを授与された。

2015年3月、プーチン大統領は2つの部門に「警備員」の名誉名を授与した。

ウランウデからの空挺旅団、83。

ウスリースクからの空挺旅団および38. モスクワ地域からの通信連隊。

ステータスは、非公開の戦闘作戦に対して授与されました。

2015年3月にRoyalUnited ServicesInstituteが発行したIgorSutyaginの報告によると、合計42,000人の通常のロシアの戦闘部隊が戦闘に関与しており、2014年12月のピーク時の戦力は10,000人です。

ウクライナの領土は2014年8月に始まりました。

そのとき、ウクライナの軍事的成功により、親ロシアの反政府勢力が崩壊する可能性が生まれました。

報告書によると、ロシア軍は反ウクライナ側で最も有能な部隊であり、通常のドネツクとルハンシクの反乱軍は基本的に「大砲の飼料」として使用されています。

シカゴ国際関係会議2014年半ばに高度な軍事システムが大量に流入して以来、ロシアの分離主義者はウクライナ軍よりも技術的な利点を楽しんでいると述べた。

効果的な対空兵器（“Buk”、MANPADS）はウクライナの空爆を抑制し、ロシアのドローンは情報を提供し、ロシアは安全通信システムは、通信インテリジェンスからウクライナ側を妨害しました。

ロシア側はまた、ウクライナに欠けていた電子戦システムを頻繁に採用した。

ロシアの分離主義者の技術的利点に関する同様の結論は、紛争研究センターによって表明されました。

2015年3月、DPR特殊部隊の司令官であるドミトリーサポジニコフはBBCにインタビューを行い、そこで彼は紛争へのロシア兵の関与について公然と話しました。

彼は、国境を越えたロシアの軍用車両と人員の到着は、デバルツェボの戦いなどの大規模な作戦の成功にとって重要であると述べた。

ロシアの高官が作戦を計画し、DPR部隊を擁する通常のロシア軍部隊が共同で作戦を遂行した。

Sapozhnikovの意見では、「誰もがそれを知っている」そしてそれは「秘密ではない」が、彼がサンクトペテルブルクに戻ったとき、それがロシアでそれほど広く認められていないことを知って驚いた。

2015年4月、エカテリブルクに戻ったロシアのボランティアのグループは、地元メディアへのインタビューで、地元住民からのサポートの欠如について不満を述べました。

マドリッドの裁判所」は彼らをテロリストと見なした。

DPRは彼らを「違法な武装集団」と見なし、彼らに契約を申し出たが、彼らが署名した場合、彼らはロシアの法律の下で傭兵になるだろう。

別のボランティア、「ラトガリア人」と呼ばれるラトビアの市民、ドンバスからの帰国時に、ロシアのメディアで見た状況との状況の違いに失望したと語った。

彼は、地元の民間人からの武装勢力に対する支援がなく、時には敵意を示し、ロシア軍と軍事装備の存在を認めた。

また、4月初旬、多くのロシアのスペツナズ兵士が軍服を武装勢力が使用する「鉱夫の戦闘服」に着替える写真を撮り、VKページに投稿し、ウクライナのメディアに取り上げられた。

「ファシズムと戦う」ためにドンバスに残した別のボランティア、ボンド・ドロフスキーは、彼が大規模な略奪に関与した「軍隊ではなくギャング」に自分自身を見つけた方法を説明して、帰国時にロシアのメディアに長いインタビューをしました。

彼はまた、ロシア軍がドンバスに軍装備品、人員、弾薬を密かに配達するために使用した方法と、地元の民間人の敵対的な態度についても説明しました。

2015年4月22日、米国国務省は、ウクライナ東部で防空システム、UAV、コマンドおよび制御機器を蓄積し、「複雑な」軍事訓練を実施したとして、「ロシアと分離主義者の複合軍」を非難しました。

ロシアは訓練に関与している」と述べた。

ロシアはまた、ウクライナとの東の国境やハリコフに近いベルゴロドの近くで軍事的プレゼンスを強化しています。

2015年5月、ロイターは、ドンバスでトラック運転手、T-72B3戦車の乗組員、および「Grad」ランチャーとして勤務していた、匿名の条件で名前を挙げられた、または話している多くのロシアの兵士にインタビューしました。

彼らの同僚の何人かは彼らの指揮官からドンバスに行くように頼まれたときに辞任しました。

それは提供された給料が月額20から60,000ルーブルの間だったので「簡単な決定ではありませんでした」。

ランチャークルーのメンバーは、国境から約2kmのロシア領からウクライナで標的を砲撃していることを確認しました。

ボリス・ネムツォフの同盟国はプーチンを解放した。

他のロシアの野党活動家は、ウクライナで活動していたGRU特殊部隊旅団のメンバーの新鮮な墓を発見したと発表した。

5月、2人のGRU兵士、アレクサンドルアレクサンドロフとエフゲニーエロフェエフがシャスティ近くの戦闘で捕らえられ、後に報道機関からインタビューを受け、捕らえられた時点で現役であったことを認めました。

ロシアの軍司令部は、2014年12月に現役を辞めたと宣言しました。

この主張は、アレクサンドロフの妻によってロシアのテレビで繰り返されました。

その結果、ウクライナは彼らを捕虜ではなくテロリストだと宣言し、兵士の地位に関してロシアのマスコミで論争が起こった。

同時に、ロシアのジャーナリストは、彼らの家族が報道機関や捕らえられた兵士との接触から厳しく隔離されていることを発見した。

アレクサンドロフはロシアでの地位を確認するための法的方法を模索すると宣言しましたが、軍事アナリストのアレクサンダー・ゴルツは、特殊部隊の兵士がそのような状況で契約終了宣言に定期

的に署名するため、これは不可能だと考えています。

その後まもなく、ロシア軍のドローン「Forpost」がアウディーイウカの近くで撃墜され、すべてのシリアル番号と銘板が無傷で、良好な状態で回収されました。

2015年5月28日、大西洋評議会は「ウクライナ東部への直接的なロシア軍の関与の反駁できない証拠」を提供したと彼らが述べた報告書である「明白な視界に隠れること：ウクライナでのプーチン戦争」を発表した。

2015年5月17日、第3独立親衛特殊部隊の2人のロシア兵が、Shchastya町（ウクライナ、ルハンシク州）の近くでの戦闘中にウクライナの秘密部隊に捕らえられました。

5月18日、彼らはキエフに移送された。

5月19日、ロシア国防省のスポークスマンは、2人の指名された囚人は捕らえられたとき、現役の軍人ではなかったと述べた。

ウクライナ保安局長は、2人の男性が「テロ行為」で起訴されると述べた。

2015年5月20日、ウクライナへのOSCEミッションのメンバーは、病院でロシアの兵士と話しました。

2015年5月20日のOSCEレポートには以下が含まれます。

そのうちの1人は、彼がウクライナに行くように彼の軍隊から命令を受けたと言いました。

彼は3ヶ月後に「減退復帰」することになっていた。

彼らは両方とも、以前に「任務で」ウクライナに行ったことがあると言った。

2015年6月、副ニュースの記者サイモンオストロフスキーは、デバルツェボの戦いの最中にロストフ州の軍事キャンプを通り、ウクライナのヴレヒルスクに戻ったロシアの契約兵士、バトダンバエフの動きを調査し、ダンバエフが撮影した正確な場所を見つけました。

彼自身、そしてダンバエフがロシア軍で活発に奉仕している間にウクライナで戦ったという結論に達した。

ロシアがOSCEの許可を拒否した場合OSCEのオブザーバーであるポール・ピカードは、その使命を拡大するために、「ロシアのメディアが私たちの発言をどのように操作するかをよく見ます。

彼らは、ロシア軍が国境を越えるのを見たことがないと言っています。

しかし、それは2つの国境を越えることにのみ当てはまります。

他の人たちに起こっている」と語った。

2015年7月、ウクライナは、弾薬を積んだトラックが間違った方向に曲がり、ウクライナの検問所に到着したときに、ロシアの将校ウラジミール・スターコフを逮捕しました。

逮捕されたスターコフは、彼が現役のロシア軍将校であると宣言し、後にノボチェルカスクのロシア軍部隊に正式に配属されたと説明したが、到着するとすぐにDPR部隊に加わるために再配属された。

2015年9月、国連人権高等弁務官事務所は、暴力が「ロシア連邦からの外国の戦闘機と洗練された武器と弾薬の存在と継続的な流入によって煽られた」と指摘し、紛争によって8000人の犠牲者が出たと推定した。

2015年11月、ロシアの裁判官は、DNR民兵に仕えることが緩和状況であるというロシア市民の主張を受け入れました。

2015年12月17日、プーチンはロシアの軍事諜報員がウクライナで活動していることを認め、「軍事分野を含む特定の任務を遂行する人々がウクライナにいないとは決して言わなかった」と述べた。

2020年に公開されたロシアの鉄道交通データ（gdevagon.ru）の分析によると、特に激しい戦闘の期間である2015年1月に、「高爆発物」と宣言された数千トンの貨物がロシアのさまざまな場所からUspenskayaに鉄道で送られました。

ロストフスカヤ州（ロシア）から分離主義者が管理するウクライナの一部に渡る路線にある小さな鉄道駅。

2016年8月8日、ウクライナは、ロシアがクリミアの境界線に沿って軍事的プレゼンスを高めたと報

告しました。

その後、国境検問所は閉鎖されました。

8月10日、ロシアの治安機関FSBは、「ウクライナのテロ攻撃」を阻止し、アルムヤンスク（クリミア）での衝突で2人の軍人が殺害されたと主張し、「数人の」ウクライナ人とロシア人の市民が拘留されたと付け加えた。

ロシアのメディアは、殺害された兵士の1人がロシアのGRUの指揮官であり、後にシンフェロポリに埋葬されたと報じた。

ウクライナ政府は、事件が起こったことを否定した、そして8月9日の事件と並行して、ウクライナ当局は、多くのロシア兵が脱走したがウクライナに入国しなかったと主張し、ロシアの諜報員と国境警備隊の間で小競り合いが起こったと主張した。

ロシアのプーチン大統領は、ウクライナが「テロの実践」に目を向けたと非難した。

ウクライナのポロシェンコ大統領は、ロシア語版の出来事を「同様に冷笑的で狂氣的」と呼んだ。

米国はロシアの主張を否定し、ウクライナ大使（ジェフ・R・パイアット）は「米国政府はこれまでのところ、「クリミア侵攻」のロシアの主張を裏付けるものは何も見ていません。

ロシアはこの主張を利用してクリミア半島で急速な軍事力増強を行い、その後ウクライナ国境近くで訓練と軍事行動を行った。

ウクライナのペトロ・ポロシェンコ大統領は、ロシアがウクライナへの本格的な侵攻に備えていると警告した。

2016年9月、OSCE監視ミッションは、ドネツクから26km東にロシアのナンバープレートが部分的に覆われた軍用トラックに気づきました。

また、9月にロシアの兵士デニス・シドロフがシロカヤ・バルカのウクライナ軍に降伏し、この地域の地元のDNR軍のロシアの指導力の詳細を明らかにした。

2016年10月17日、OSCEミッションは、ロシアの軍用車両で使用されている「白い文字が付いた黒いナンバープレート」を備えたミニバンに注目しました。

民間および軍のカモフラージュの多くの人々が車で旅行していました。

ケルチ海峡は、アゾフ海にあるウクライナの東部の港と黒海への重要なリンクを提供します。

黒海は、2014年の余波でロシアが事実上支配権を獲得しました。

2017年、ウクライナは海峡の使用について仲裁裁判所に訴えました。

しかし、2018年までに、ロシアはその上に橋を架け、海峡を通過できる船のサイズを制限し、新しい規制を課し、その後、ウクライナの船を何度か拘束しました。

この問題に対する緊張は何ヶ月もの間高まっています。

2018年11月25日、オデッサからマリウポリに移動する3隻のウクライナのボートがケルチ海峡を横断しようとした事件が発生し、ロシアの軍艦がウクライナのボートに発砲して押収した。

24人のウクライナ人船員が拘束された。

1日後の2018年11月26日、ウクライナ議会の議員は、ウクライナの沿岸地域およびロシアと国境を接する地域に沿った戒厳令の賦課を、ロシアによるウクライナ海軍船の発砲および押収に応じて圧倒的に支持した。

1日前のクリミア半島。キエフの合計276人の議員は、2018年11月28日に発効する法案に合格し、30日後に自動的に失効しました。

2019年にウクライナ政府軍とロシアが支援する分離主義者との紛争で110人以上のウクライナ兵が殺害された。

2019年5月、新たに選出されたウクライナのウォロディミルゼレンスキー大統領が、ドンバス戦争を終結させることを約束して就任しました。

2019年12月、ウクライナと親ロシアの分離主義者は捕虜の交換を開始しました。

2019年12月29日に約200人の囚人が交換された。

ウクライナ当局によると、2020年にウクライナ政府軍とロシアが支援する分離主義者との間の紛争で50人のウクライナ兵士が殺害された。

2021年から2022年ロシア・ウクライナ危機

ドンバス戦争のタイムライン（2021）およびドンバス戦争のタイムライン（2022）3月下旬から2021年4月上旬に、ロシア軍は大量の武器と装備をロシア西部と中央部からシベリアまで、占領下のクリミア半島とヴォロネジの南17kmにあるポゴノボ訓練施設に移動させました。

ジェーンズの諜報専門家は、中央軍管区からロシアとウクライナの国境近くに移動した14のロシア軍部隊を特定し、2014年のクリミア侵攻以来最大の未発表の軍事運動と呼んだ。

ウクライナ軍の最高司令官ルスラン・コムチャックは、ロシアが28のBTG（大隊戦術グループ）を駐留させたと述べた。

国境に沿っており、ロシアの西部軍管区のブリャンスク州とヴォロネジ州を含めて、さらに25人が持ち込まれると予想されていた。

翌日、ロシアの国営通信社TASSは、占領下のクリミア半島を含み、ドンバス紛争地帯に隣接する南部軍管区で、15,000人の兵士からなるBTGのうち50人が訓練のために集結したと報告しました。

4月9日までに、ウクライナ国境警備隊の長は、85,000人のロシア兵がすでにクリミア半島またはウクライナ国境から40 km（25マイル）以内にいると推定した。

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は、アメリカのジョー・バイデン大統領と話し、NATO加盟国にウクライナの加盟要請をスピードアップするよう促した。

クレムリンのスポークスマンは、ロシアの軍事行動は脅威をもたらさないと述べたが、ロシアの当局者ドミトリー・コザクは、ロシア軍がウクライナのロシア市民を「守る」ために行動する可能性があるかと警告した。

ウクライナの終わりの始まり」 - 「足ではなく、顔のショット」。[427] [428] 当時、自称ドネツク人民共和国の約50万人がルハンシク人民共和国は、2014年に戦闘が勃発して以来、ロシアのパスポートを発行されていた。

ウクライナがフランス、ドイツ、OSCEとのウィーン文書会議を要請したとき、ロシアは参加を拒否した。

ドイツの首相アンゲラ・メルケルはロシアのプーチン大統領に電話をかけ、蓄積の逆転を要求した。

米国ホワイトハウス報道官のジェン・サキは2021年4月初旬に、ウクライナ国境でのロシア軍の増強は2014年以来最大であると発表した。

3月24日、ウクライナのゼレンスキー大統領は、「クリミア自治共和国とセヴァストポリ市の一時的に占領された領土の占領と再統合の戦略」を承認する政令117/2021に署名しました。

2021年4月17日、ロシア連邦保安庁（FSB）は、ソソニウクがFSBデータベースから機密情報を取得しようとしたとして、スパイ容疑でサンクトペテルブルクのウクライナ総領事館を拘束しました。

ロシア外務省は、ウクライナの臨時代理大使であるヴァシル・ポコティロを召喚したと述べ、ソソニウクは4月22日までに国を離れなければならないと述べた。

その後、ウクライナ外務省は、ソソニウクが釈放される前に数時間拘束されたと述べた。

また、ソソニウクの拘留に抗議し、ロシアの告発を拒否し、4月19日から72時間以内に「挑発」に応じて「キエフのロシア大使館の上級外交官」を追放すると付け加えた。

2021年4月22日、ロシア国防大臣のセルゲイショイグは、軍隊が5月1日までに基地に戻ることで演習のドローダウンを発表しましたが、2021年9月にベラルーシとの年次演習のためにポゴノボ訓練施設に装備を残しました

2021年9月1日、ニューヨークタイムズ紙は、「バイデン政権の上級幹部」を引用して、2021年春の以前のロシア軍の増強以来、ロシアは数千人の軍隊を撤退させただけだと報じた。

国境地域のロシア軍は約80,000人。

2021年9月、ウクライナはNATO軍と軍事演習を実施しました。

クレムリンは、ウクライナで軍事インフラを拡大しているNATOがプーチン大統領の「赤線」を越えるだろうと警告した。

また、9月には、ロシアの将軍が西側の戦略的方向性と呼んでいるものを中心とした、ロシアとベラルーシの大規模な合同軍事演習であるZapad2021に最大20万人のロシア軍が参加した。

2021年11月、ロシア国防省は、黒海への米軍艦の配備を「地域の安全と戦略的安定への脅威」と表現した。

同省は声明のなかで、「黒海地域での米国の活動の背後にある本当の目標は、キエフが南東部の紛争を強制的に解決しようとした場合に備えて、作戦劇場を探索することである」と述べた。

11月13日、ウクライナのウォロディミルゼレンスキー大統領は、ロシアが再び国境地帯に10万人の軍隊を集めたと述べた。

これは米国の評価である約7万人よりも多い。

11月初旬、ロシアの軍事力増強の報告により、米国当局は、ロシアがウクライナへの潜在的な侵略を計画している可能性があることをEUに警告した。

クレムリンのスポークスマン、ドミトリー・ペスコフは、ロシアがウクライナへの侵略の可能性に備えているという主張を否定した。

彼は、ウクライナを「ドンバスに対する攻撃的な行動を計画している」と非難した。

ペスコフはNATOに対し、ロシアの国境近くで「軍事拳を集中させる」ことをやめ、ウクライナに近代兵器を装備することをやめるよう求めた。

2021年11月26日、ゼレンスキー大統領はロシアが彼の政府を転覆させる計画を支持したとして非難した。

ロシアは彼の告発を否定した。

2021年11月30日、プーチン大統領は、ウクライナにおけるNATOのプレゼンスの拡大、特にモスクワを攻撃できる長距離ミサイルまたはルーマニアやポーランドと同様のミサイル防衛システムの配備は「レッドライン」の問題になると述べた。

クレムリンのために。彼は、これらのミサイル防衛システムは、攻撃的なトマホーク長距離巡航ミサイルの発射装置に変換される可能性があるとして述べた。

プーチンによれば、「ウクライナの領土に何らかのストライキシステムが出現した場合、モスクワへの飛行時間は7分から10分、極超音速兵器の場合は5分になる。

NATO事務局長イエンス・ストルテンベルグは次のように述べています。

「ウクライナがNATOに加盟する準備ができているかどうかを決定するのは、ウクライナと30のNATO同盟国だけです。

2021年12月1日、ロシアはウクライナが親ロシアの分離主義者と対峙するためにその軍隊の半分（約125,000人の軍隊）をドンバスに配備したと非難した。

12月3日、プーチン大統領は、ドンバスで親ロシアの分離主義者に対してトルコ製のバイラクタルTB2ドローンを使用したとしてウクライナを批判し、この動きはミンスクの和平協定に違反していると述べた。

ジャーマン・マーシャル基金のオズグル・ウンルヒサルシクリによれば、2020年のアルメニアとアゼルバイジャン間のナゴルノ・カラバフ戦争では、トルコ製の「アゼルバイジャンに提供されたドローンが決定的な要因であった」「そしてロシアはこれを知っている」。

12月9日、ロシアはウクライナを引越したと非難した分離主義者がウクライナ軍と戦っている最前線に向かう重砲。

ロシア軍参謀本部長のヴァレリー・ゲラシモフは、[NATOの]「ウクライナへのヘリコプター、無人航空機、飛行機の配達は、ウクライナ当局に鋭く危険な措置を講じるように促している。

ドンバスの問題の強制解決は抑制されるだろう」と語った。

2022年1月2日、ジョー・バイデン大統領はゼレンスキー大統領と会談し、ロシアがウクライナにさらに侵攻した場合、米国とその同盟国およびパートナーが断固として対応することを明らかにした。

2021年1月17日、英国国防大臣のベンウォーレスは、英国がウクライナに対戦車兵器を空輸で供給していると発表しました。

ロシア軍と武器は、2月に始まる「連合国の決議」合同演習のためにベラルーシに到着し始めた。

米国の諜報当局は、ロシアが2022年1月にウクライナへの大規模な軍事攻撃を計画していると警告した。

2022年1月19日、ジョー・バイデン大統領は、ロシアがウクライナを侵略すると考えていると述べた。

バイデンは、ウクライナへの本格的な侵攻は、第二次世界大戦以来、「戦争と平和の観点から世界で起こった最も重要なこと」になるだろうと述べた。

米国は、ロシアがウクライナを侵略するために175,000人の軍隊を集めることができると見積もっています。

ウクライナのオレクシイ・レズニコフ国防相は、「私たちには25万人の軍人がいる。さらに、40万人の退役軍人と20万人の予備軍がいる。

17万5000人はウクライナに行くには不十分だ」と述べた。

レズニコフは、ロシアが2022年1月下旬にウクライナに対して大規模な攻撃を開始する可能性がある」と述べた。

米国は、ロシアがウクライナを侵略する口実を作る「偽旗作戦」を行うために、妨害工作員をウクライナに派遣する計画であるとロシアを非難した。

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は、米国の主張を「完全な偽情報」として却下した。

クレムリンは、ウクライナを侵略する計画があることを繰り返し否定している。

2022年1月24日、ウクライナ国家安全保障防衛評議会の事務局長であるOleksiy Danilovは、ウクライナ国境近くでのロシア軍の移動は「ニュースではない」、「本格的な攻撃についての発言の根拠は見当たらない」と述べた。

2022年1月25日、ウクライナ国防相のOleksii Reznikovは、現在、ロシアによるウクライナへの本格的な侵攻の脅威はないと述べた。

ウクライナのハンナ・マリヤル副国防相は、ウクライナの国境に集結したロシア軍の多様性は「本格的な侵略には不十分である」と述べた。

2022年1月26日、NATOは船と戦闘機を東ヨーロッパに送りました。

米国は8,500人の軍隊が警戒していると言った。

米国は、米務長官のアントニー・ブリンケンによる正式な返答で、ウクライナをNATOから締め出すというロシアの要求を拒否した。

2022年1月28日、ウクライナのウォロディミルゼレンスキー大統領は、ロシアの侵略の可能性について自国に「パニック」を引き起こさないように西側に呼びかけ、侵略の「差し迫った」脅威の絶え間ない警告がウクライナの経済を危険にさらしていると付け加えた。

ゼレンスキーは、ロシアの軍事力増強が始まった2021年初頭よりも「大きな拡大は見られない」と述べた。

2022年2月2日、ロシアのアleksandr Golovkin副外相は、ロシアとウクライナ間の紛争の激化を受けて、NATOの同盟国を支援し、ヨーロッパにさらに軍隊を派遣するという米国のイニシアチブを非難しました。

彼はそれを緊張を高めるだけの「破壊的」かつ「不当な」ステップだと説明した。

2022年2月5日、ロシアは、ウクライナに対する緊張が高まる中、ベラルーシをパトロールするために2機の長距離核対応航空機を派遣しました。

2022年2月7日、ウラジーミルプーチンとエマニュエルマクロンはクレムリンでマラソンの会談を行いました。5時間の会談では大きな進展はありませんでした。

2022年2月11日、バイデンの国家安全保障問題担当補佐官のジェイクサリバンは、2022年の冬季オリンピックが終了する前に、ロシアがウクライナに侵入する可能性について公に警告し、すべてのアメリカ人にウクライナをすぐに去るように促しました。

米国の諜報機関は、ロシアによるウクライナへの侵入がどのように発生する可能性があるかに関する詳細を発表した。

これらには、ロシアによる空襲、ミサイル攻撃、電子戦、それに続く地上侵攻の可能性が含まれていました。

バイデン政権の高官は記者団に次のように語った。

「私たちは自分たちの目で地上で見ているものに基づいてこの評価を行っています。

米国の諜報機関は、ロシアが2022年2月16日にウクライナを侵略することを計画していることを示した。

2022年2月15日、ロシアは、一部の部隊がエスカレーション解除の試みであると信じていることで、ウクライナ国境から一部の部隊を排除したと主張している。

しかし、状況は依然として不透明であり、ロシアの動きは西側の指導者からの疑惑に直面しており、同日ウクライナがサイバー攻撃を受けた後、ロシアによって組織化されたと考えられ、さらに強化された。

米国大統領ジョー・バイデンは、ロシアが侵略しないことを確信しておらず、ウクライナのすべてのアメリカ人に直ちに避難するよう促した。

ポーランドのズビグニェフ・ラウ外相は、戦争を防ぐためのさらなる試みとして、現在の状況について話し合うためにモスクワを訪れました。

一部の情報筋は、ロシア軍が医薬品を備えたウクライナ国境にさらに近づき、発砲位置に配置されたと主張している。

2022年2月16日、米国の諜報機関によると、さらに約7,000人のロシア軍がウクライナ国境に配備されました。

これは、モスクワがウクライナ国境から軍隊を撤退させたと主張した翌日である。

米国が信じているように、ウクライナの侵略は発生しなかった

2022年2月17日、ウクライナの幼稚園の建物が砲撃され、ロシア軍によって編成された疑いがありました

攻撃で殺された人は誰もおらず、モスクワはその関与を否定している。

西側の指導者たちは、砲撃はロシアがウクライナの侵略を正当化する可能性のある「偽旗作戦」である可能性があるとして警告している。

2022年2月20日、ロシアのウラジーミルプーチン大統領は、ウクライナの紛争を解決するための外交的試みを強化しなければならないと述べた。

彼は、紛争を防ぐために、NATOは安全保障に対するモスクワの要求を真剣に受け止めなければならないという事実を強調した。

プーチン大統領は、フランスのエマニュエル・マクロン大統領との電話会談の後、「洗練された兵器と弾薬をウクライナに投入した」としてNATOを脅した。

2022年2月21日、ロシア政府は、ウクライナの砲撃がロシアとウクライナの国境にあるFSB国境施設を破壊したと主張し、ロシアの領土に侵入しようとした5人のウクライナの兵士を殺害したと主張した。

ウクライナは両方の事件に関与することを否定し、それらを偽旗作戦と呼んだ。

同日、ロシア政府はDPRとLPRを独立国として正式に承認し、プーチンは戦車を含むロシア軍にこの地域への入国を命じた。

ウクライナのロシアの国境を越えた砲撃は、自己宣言されたドネツクとルハンシク人民共和国の敗北を防ぐために、2014年7月から9月に起こりました。

ロシア軍は、ドンバス地域のウクライナ軍を標的にした一連の砲撃を行った。

ドンバス戦争で使用されている軍事装備の一部

ロシア当局は、ロシア軍部隊がウクライナで活動していたという報告を否定し、代わりにウクライナとの国境近くで定期的な訓練に送られ、誤って国境を越えたと主張した。

それにもかかわらず、その兵士の関与の証拠は横行している。

OSCE監視任務は、ロシアからドンバスに密かに国境を越えて、ロシアで生産され、ウクライナに輸出されなかった軍装備品の存在を、多くの場合に発見した。

ランド研究所によると、「ロシアは分離主義勢力を武装させ、訓練し、主導してきた。しかし、キエフ自身の推定によれば、反政府勢力の大多数は地元の人々で構成されており、通常のロシア軍の兵士ではない。

実際、ロシア軍は2014年8月から9月と2015年1月から2月の2回だけ戦闘に直接関与し、能力は限られていましたが、どちらのエピソードもウクライナの敗北を打ち砕くことになりました。

2014年8月25日、10人のロシア空挺軍人がウクライナで捕らえられました。

ロシア国防省は、男性が行方不明になり、偶然に国境を越えてウクライナに入ったと主張しました。

2015年5月、2人の疑わしいロシアのGRUエージェント（ミリタリーインテリジェンス）がウクライナ軍によって拘留された。

ロシア国防省は、男性は拘束時に現役ではなかった元兵士であると述べた。

二人の男は後に捕らえられたウクライナのパイロットで政治家のナディヤ・サウチェンコと交換された。

2015年7月、ドネツクが弾薬トラックをウクライナの検問所に運転したときにロシアの少佐が拘束され、ロシア軍はその男がロシア軍に関与していないと主張し、地元の分離主義者のために戦った。

少佐は後に捕らえられたウクライナの兵士と交換された。

2015年9月、ウクライナの国境警備隊は、ウクライナのルハンシク州で国境を越えたときに2人のロシア内軍を拘束した。

ロシア軍人は、彼らが誤って失われ、国境を越えたと述べた。近くのロシアの村に渡り、軍人を誘拐した。

2015年10月、ロシア国防省は、「特殊部隊がウクライナから撤退してシリアに派遣された」こと、および親ロシアの反政府勢力が保有する領土でウクライナ東部に勤務していたことを認めた。

2015年12月17日、ウクライナで軍事諜報員であると非難されていた2人の拘束されたロシア市民について尋ねられたとき、ウラジミール・プーチン大統領は次のように答えた。

これは一般的に、ロシアの軍事工作員がウクライナに配備されたことを認めたものと見なされていた。

その宣言の前に、ロシアの軍隊の存在を確認する大量の状況証拠があった。

状況証拠の大部分は、ロシア軍に固有であり、ジャーナリストによって捕らえられ、ソーシャルメディアで発見された紛争の前にウクライナに存在することのない軍用車両と武器です。

OSCE監視ミッションは、DPRが管理する領域でロシア軍人として自分たちを宣言している軍隊の存在にも注目しています。

ソビエト後の共和国の残りの部分として、すべてのロシアの軍事装備には船体番号があります(ortov oi nomer)。ただし、LPRおよびDPRを所有する機器には、ロシア軍との関係を隠すためにすべての船体番号が塗りつぶされています。

2015年、NATOのスポークスマンRobert Pszczelは、Dozhd TVのインタビューで、同盟にはドンバス紛争への「同盟の28加盟国がロシアの軍事的関与に疑いの余地がない」という十分な証拠があると述べました。

ドネツク空港での戦闘で殺害された人々の少なくとも31人はロシア市民であり、ロシアに送り返されました。

独立系ニュースサイトのノヴァヤ・ガゼタのレポートは、ガーディアン紙に転載され、ドネツク空港での戦闘中に亡くなった1人のロシア人男性の未亡人を追跡し、戦闘機の移動を組織したあいまいな構造に光を当てようとした。

ウクライナへ。報告書はさらに、「国境を越えて戦っている人々の痕跡をすべて隠すことに熱心であると思われるロシアの公務に対処することへの欲求不満」を強調した。

アレクサンドル・ザハルチェンコは、2014年8月8日、ANNA Newsにより、ドネツク人民共和国の首相に就任宣誓しました。

8月にも、彼は1200人の戦闘機がロシアで4か月間訓練され、渡り、戦う準備ができていると述べた。援軍には30両の戦車と120両の装甲車両が含まれていると彼は語った。

アレクサンドル・ザハルチェンコは、1200人の戦闘機が4か月間ロシアで訓練を受け、国境を越えて戦う準備ができていると述べた。

Zakharchenkoによると、増援には30両の戦車と120両の装甲車両が含まれていました。

彼は後でコメントをすることを否定した。

ウクライナで殺害されたロシアの兵士の事件は、彼らが生まれた共和国の地元のロシアのメディアで広く議論されています。

ドンバスの募集は、ベテランや他の準軍事組織を介してかなり公然と行われています。

そのような組織のリーダーであるウラジミール・エフィモフは、ウラジー地域でプロセスがどのように機能するかをインタビューで詳細に説明しました。

組織は主に軍の退役軍人を募集しますが、軍の経験を持つ警官、消防士なども募集します。

1人のボランティアに装備する費用は約35万ルーブルと見積もられています（約\$ 6500）に加えて、ボランティアの給与の費用は、経験に応じて月額60,000~240,000ルーブルです。

ボランティアには、ロシアの傭兵法を回避するために、参加が「人道支援の提供」に限定されると主張する文書が発行されます。

ロシアの反傭兵法では、傭兵は「ロシア連邦の利益に反する目的で[戦闘に]参加する」人物として定義されています。

募集された人は、目的地で与えられる武器なしで紛争地帯に移動します。

多くの場合、ロシア軍は赤十字の人員を装って旅をしました。

モスクワのロシア赤十字社の責任者であるイゴール・トルノフは、これらの護送船団を非難し、実際の人道援助の提供をより困難にしたと述べた。

オルスクの「愛国組織」の別のリーダーであるパベル・コロビンは、ドンバスのために合計約12,000人の戦闘機がロシアから採用されたと推定した。

かなりの割合が、高給に惹かれて経済的に困難な状況にある人々でした（ボランティアの1人は100,000ルーブルまたは1600ドルを約束されました）。

彼は、ウクライナの国境を越えることについての懸念に応じて、「国境にはボランティアのための青信号がある」と「適切な構造物で覆われているすべてのものがある」と説明した。

殺されたボランティアの家族は、体を取り戻すのに助けを求めるとき、「FSBIに話しかけてください。

彼らだけがそこですべてをコントロールしている」とアドバイスされています。

彼の死の少し前に、ボリス・ネムツォフは、ウクライナでの戦闘中の部隊の重大な損失と約束された支払いの欠如について不平を言った「イヴァノヴォからの空挺部隊」のグループから連絡を受けたと伝えられています。

ネムツォフは、ドンバス戦争に参加したロシア兵の事件を記録したより大きな報告書を作成していました。

これは彼の暗殺の考えられる理由と考えられています。

戦死した、または捕虜として捕らえられたロシア人の帰還は、ロシア国家がウクライナへの関与を否定したため、メディアで物議を醸す話題になっています。

AP通信はそれをアフガニスタンでの戦争中のソビエト連邦の秘密と比較し、「死傷者の本当の数が

知られるようになると、侵略は不人気になった」と述べた。

ロシア軍当局者は、兵士が「訓練演習」を行っていることだけを家族に伝えている。

ロシア兵士の母の委員会の長であるヴァレンティーナ・メルニコワは、ロシア当局がウクライナで殺害された兵士の親戚を脅迫し、彼らの死について沈黙を守るように強制していると述べた。

クレムリンは、ウクライナでのロシア兵の死について疑問を投げかけた人権労働者を組織的に脅迫し、沈黙させようとした。

2014年9月中旬、ニュースネットワークドシチの上級プロデューサーであるKsenia Batanovaが、頭蓋骨を骨折した攻撃で暴行された。

ドシチは、ウクライナへのロシアの関与をカバーし、兵士の死の実行中の集計を続けているチャンネルです。

ドシチに対するクレムリンの圧力ウクライナ危機の間に激化した。

BBCは、2014年8月12日に、妹への電話でウクライナについて話していたロシアの兵士、コンスタンティンの死について報告した。

BBCチームは脅迫され、凶悪犯に襲われ、そのビデオカメラが破壊されました。

12人の空挺部隊の死を調査した後、無意識に殴打されたMPのLev Shlosbergは、次のように述べた。彼らは死を恐れている。

Yabloko政党のBoris Vishnevsky、および公民権団体MemorialのLyudmila Ivakhnina、報復の恐れがあるため、専門家の契約に署名するよう圧力をかけられた徴兵に関する情報を収集することは難しいと述べた。

ロシアの兵士の母親の委員会の連合ロストフ地域に「訓練」のために公式に派遣された多くのロシア兵が家族に公式に明らかにされなかった理由で死亡した後、政府の「秘密戦争」の方針に積極的に疑問を呈し始めた。これらの事件は、ロシアの非主流メディアによってさらに調査されました。

ロシア国防省は常にウクライナでのロシア兵の存在を否定し、特定の個人に関する否定できない証拠が提示されたとき、彼らが「誤って」国境を越えた可能性がある、当時は「休暇中」だった、または彼らの契約はキャンセルされました（しかし実際には過去のもので）。

兵士の母親は、亡くなったロシアの兵士が正式に戦争地帯に送られない場合、彼らの家族は社会的支援と退役軍人の年金を受け取らないだろうと述べた。

2014年10月2日、RBCはRBCの調査を発表しました。ウクライナのロシアの兵士はどこから来たのか、ロシアの軍事部門がリストされており、その兵士はロシアからウクライナに密かに派遣され、そこで使用されたと推定されます。

2015年、Vice Newsは、ウクライナで殺害されたロシア兵の多くの家族と話をした、ウクライナのロシアのゴーストアーミーというタイトルのシリーズを公開しました。

2014年8月28日に殺害されたサマラ州のPodsolnechnoe出身のロシア人Sergey Andrianovの母親は、息子の軍隊から受け取った多くの文書を提示します。

ロストフオンドンで発行された死亡診断書です。

それは、彼が「特別な任務を遂行している」間に「一時的な配置の場所」で死亡したこと、および「ロシア連邦の国境を通過する身体の輸送」を証明する文書を指定します。

息子の司令官に対する母親の質問はすべて「国家機密」として却下され、彼女は100,000ルーブル（1600ドル）の補償を受けると言われました。

2014年10月16日、ウクライナ保安庁の副局長は、ロシア連邦軍の131人の軍人のうち16人を、ホットラインを通じて請願した親戚に帰国させたと述べた。

兵士の権利擁護派によると、ウクライナに送られた後に殺されたロシアの兵士の家族は沈黙を守るように言われ、一部の家族は、兵役の稼ぎ手が殺された後、彼らが受ける資格のあるさまざまな補償を受けていないと言います。

7人の母親であるSvetlana Davydovaは、ロシア軍の動きについてウクライナ大使館に電話したことで反逆罪で逮捕され、モスクワの安全性の高いLefortovo刑務所に拘留された。

ロシア軍参謀本部は、事件の詳細が「国家機密」を構成すると述べた。

Davydovaに対する告訴は翌月取り下げられた。

2015年5月下旬にプーチンによって署名された改正は、平時における「特殊作戦中」のロシア軍人の死亡に関する情報を禁止した。

ロシア安全保障会議の書記であるニコライ・パトルシェフは、2015年6月22日のRIAノーボスチとのインタビューでロシアのボランティアについて話し合い、次のように述べています。

それらを止めることは不可能だろう」。

ロシアは、2015年6月25日の時点で、ウクライナのアゾフ大隊での戦闘で市民の1人であるRoman Zhelznovを起訴したが、分離主義者との戦闘で誰も起訴していない。

2014年9月1日から2015年6月1日までカウントが開始されて以来、国境のロシア側でのヨーロッパの監視任務は、反政府勢力が支配するウクライナ東部を行き来する軍服を着た20,021人の男性を記録しました。

2015年7月、「カダモフスキー」ポリゴン（ロストフスカヤ州）のロシアの契約兵士の多くは、「ボランティア」としてウクライナに入るのを拒否した後、脱走の罪で起訴されました。

彼らは、ベテランの地位を約束するリクルーターの頻繁な訪問と、ドンバスで戦っている人々のための8,000ルーブルの毎日の支払いを報告しました。

彼らは、お金がめったに支払われないことに気づいておらず、戦闘で死亡、捕獲、または負傷した場合、彼らはおそらく放棄され、ロシア軍によって公式の軍事的地位が否定されると述べた。

その年の後半、検察による命令の欠如やその他の矛盾にもかかわらず、彼らは「命令の実行を拒否した」として有罪判決を受けた。

2015年9月、OSCE監視ミッションは、ルハンシク近くの分離主義者訓練エリアでロシアのTOS-1「ブラティエーノ」熱気化爆弾発射装置を発見し、2016年6月、そのドローンは、ドネツクから15km離れた偽装されたR-330ZH「Zhitel」電子対策ステーションを発見しました。

両方の武器がロシア連邦の軍隊に固有であるため、調査結果は注目に値します。

2015年10月までに、ウクライナ東部とクリミアはロシアの凍結地帯の2つになりました。

戦いが低レベルであったドンバスでは凍った対立が続く可能性があったが、エスカレーションの脅威は残っていた。

2017年6月、別のGRU将校Viktor Ageyevが、ルハンシク州のZhelobokでウクライナ軍に捕らえられました。

ロシア国防省は彼が活発な兵役に就いていることを否定したが、BBCロシア軍による調査はAgeyevが2017年3月以来ロシア軍で軍事契約を結んでいることを確認した。

2017年6月30日、ロシアの外務大臣であるセルゲイ・ラブロフは、ドンバスへのロシアの関与を公然と認め、正当化した。

ドンバスとシリアでの戦いに参加するという私たちの決定について、私は多くの批判を読んだり聞いたりしました。

ロシアは、その国際的地位を考慮して、ウクライナでのクーデターを黙認し、認識し、反憲法の主催者によって発行された最初の命令の後に、ロシア人とロシア語話者をウクライナに残しておくことは容認できますか？彼らの外国のスポンサーによって支持された武装反乱は、ロシア語に関連する多くのことを禁止しましたか？

2021年11月、ロストフ・オン・ドン裁判所は、「DNRとLNRの領土に移住したロシア軍」、「DNRとLRNで勤務中のロシア兵士」などを党として公然と議論する汚職事件の判決を下しました。

容疑者が軍によって支払われた商品を配達しなかったために途方に暮れた人、ロシアからの車両の数と交差の頻度、DNRの保管場所など。

ベリングキャットの創設者でジャーナリストのエリオット・ヒギンズウクライナで起こっている主要な戦闘と一致するロシア軍に授与されるメダル of 異常な急上昇に言及しました。

2003年8月25日から2014年11月7日までの間に、ロシアの軍人に1日あたり0.6個の戦闘中のメダルが授与されたことがわかりました。

ただし、2014年11月7日から2016年2月18日までの間に、1日あたり平均9.3個のメダルが授与され、15倍以上に増加しました。

さらに、授与日は、当時ウクライナで発生した主要な紛争と直接一致しています。

2014年8月には、1日あたり60個のメダルが最初に急増します。

これは、分離主義勢力を支援するために通常のロシア軍がウクライナに侵入したという報告と一致しています。

メダルの授与は2014年11月と12月にピークに達し、1日あたり70を超えます。これは、第二次ドネツク空港の戦いの重要なターニングポイントでした。

デバルツェボの戦いと一致する2015年3月まで、1日あたり10個以上のメダルを維持し続けます。

また、戦闘での区別のためのメダルは、戦闘任務中に行われた活動に対してのみ授与される可能性があることにも注意してください。

したがって、2014年後半から2015年初めに授与されるメダルの急増は、ロシア軍人の大規模な派遣団が戦闘任務を遂行していることを示唆しています。

2014年7月7日から2016年2月18日までの間に4300個のメダルがすべて授与され、この期間中に現役のロシア軍要員が関与する戦闘作戦が行われたことを示唆しています。

同様に、他のメダルの授与の急増も見られました。

2008年9月から2014年8月までの間に1日あたり1.4メダルの割合で授与された勇敢メダルは、2014年8月から2015年11月までの間に1日あたり6.3メダルに増加しました。

スヴォーロフのメダル授与率は、2013年10月から2014年11月までの1日あたり1.5メダルから、2014年11月以降は1日あたり6.8メダルに増加しました。

実際、2014年11月24日から2015年1月25日までの期間では、2013年全体よりも多くのメダルが授与されました。組み合わせる。

アンドレイ・パルビイは、ウクライナ国家安全保障防衛評議会（NSDC）の記者会見で、過激派はロシアのロストフオン・ドンにある軍事施設で訓練を受けたと述べた。

「ロストフ・オン・ドンの近くには、テロリストがウクライナ国の領土への配備の準備をしている大きな軍事基地があります。これは、私たちの諜報機関だけでなく、拘束されたロシアの囚人によっても確認されており、彼らはこれについて証言しています基地」と述べた。

彼は、1000人以上の過激派がロシアのインストラクターによって訓練されており、それから彼らは小さな武装グループでウクライナの領土に侵入しようとしていると付け加えた。

5月21日、ウクライナは入国しようとしているロシア市民を拘束した。

彼は軍事経験があり、最近ロストフ施設で訓練を受けたことがわかりました。

ロシアの「ボランティヤ」反乱軍の主催者であるアレクサンドル・ジュチコフスキーによれば、ロストフ・オン・ドンは、兵士がホテルに住み、アパートやテントキャンプを借りるステージングエリアとして機能します。

特に、ニューヨークタイムズ紙は、ゴロビンカの小さな村（ロストフオン・ドンの北西約60 km（37マイル））と近くのクズミンカ軍事基地が、ウクライナに向かうロシアの兵士と武器のステージングエリアであると報告しています。

2014年6月、ジェンサキは、ロシアがロシア南西部の配備場所からウクライナ東部に戦車とロケット発射装置を送ったことを米国国務省が確信していると述べました。

戦車は、ロストフ・オン・ドンのステージングエリアにあるドネツクの国境を越えて配置されました。

2014年7月、ロイターは9K38イグラミサイルのログブックを公開しました。

このミサイルは、ロストフオン・ドンの軍事基地のためにモスクワの軍事保管庫からサインアウトされ、最終的にドンバスの反乱軍になり、最終的にはウクライナ人に引き継がれました。

OSCEのオブザーバーが8月9日にグコヴォ国境を越えて到着した後、彼らは、ロシアとウクライナの

国境を両方向に横断する軍隊スタイルのドレスを着た複数のグループの人々の流れがあったと報告しました。

DNR民兵。彼らはまた、DPRとLPRの負傷した支持者のいくつかの救急車の避難を観察した。

2015年2月、分離主義者側のドンバス戦争で戦ったとして、スペイン国民のグループがマドリードで逮捕されました。

モスクワを旅して、彼らは「政府関係者」に会い、ドネツクに送られ、そこで宿泊施設、制服、武器が提供されましたが、彼らはボランティアとして戦いました。

彼らは、主にセルビアとフランスからの「数百人」の西側のボランティアがいて、「彼らの半分は共産主義者、半分はナチス」であり、「ウクライナの侵略からのロシアの解放」のために共同で戦っていると述べた。

ロシアの野党政治家、イリヤ・ポノマリフは、「ウクライナの東部地域には非常に少数のロシア軍がいると確信している。

そして、それは正規の兵士ではないが、おそらく特殊部隊と軍事情報の代表である」と述べた。

7月の後半、マレーシア航空17便の撃墜後、彼は「プーチンは今や彼が間違った人々に武器を渡したと理解している」と述べた。

彼はまた、モスクワがドンバスへの武器の供給を止めたとしても、非公式にそのような輸送を続けるのに十分なロシア軍内の戦争の支持者がまだいるだろうと言った。

アレクセイ・モズゴボイのような分離主義者の指導者たちはモスクワを訪れ、誰が武器を供給しているかについて回避しました。

7月7日にドネツク市で開催された会議で、ロシアの政治家セルゲイ・クルギニャンは、パベル・グバレフを含むドンバス人民軍の代表と記者会見を開き、ロシアは分離主義者に重要な軍事的支援を提供したと述べた。

参加者間の話し合いの中で、グバレフは送られた武器が古く、完全に機能していないと不平を言った。

これに対し、クルギニャンは、12,000丁の自動小銃、グレネードランチャー、2S9ノーナ自走砲、2基のBMP、3基の戦車など、ロシアから分離主義者に供給されたと知っている特定のアイテムをリストアップしました。

彼はまた、新しい完全に機能する武器が次の場所で荷降ろしされているのを見たと言った。「カメラで撮影されているので公開しない」ドンバス。Kurginyanは、ロシアが最初に「第4カテゴリーの武器」を送ったことを認めたが、6月3日以降、完全に機能する機器を供給していた。

彼はまた、ドネツク滞在中の彼の目標の1つは、ロシアからの軍事支援を確実に増やすことであると述べた。

ウクライナのAn-26軍用貨物機が、7月14日、ロシア国境近くのウクライナの村DavydoMyilske上空で撃墜されました。

それは6,500メートルの高度で飛んでいました。

ウクライナのセキュリティサービスの責任者であるValentynNalyvaichenkoは、7月15日、SBUにはロシアが攻撃に関与したという「議論の余地のない」証拠があると述べた。

マレーシア航空17便は、7月17日、ドネツク州のトレズ近くの紛争地帯で、親ロシアの分離主義者によって支配されているウクライナの地域で撃墜されました。

オープンソースからの証拠は、旅客機を撃墜するために使用されたと広く信じられているブクミサイル発射装置がロシアから来て、7月17日にドネツクからスニジネへ。

ベリングキャットによると、ランチャーは第53対空ロケット旅団のロシア軍によって運営されていた。

8月、ロシアは、ウクライナによる検査なしに、数十台の白い大型トラック、白く塗られた緑の軍用トラックをウクライナ東部に送りました。

トラックはBBCのスティーブ・ローゼンバーグが報告した「ほとんど空」であり、その行動は迂回、気晴らしとして特徴づけられたため、他の地点で装備と人員がウクライナにやってきた。

8月17日、ウクライナはロシアがグラッドロケットランチャーを含むより多くの軍事装備を国境を越えてニジニノゴルチクに送ったと非難した。

セルゲイ・ラブロフは、ロシアが国境を越えて機器を送っていたことを否定し続けた。

彼は、この地域の国境検問所に配置されたOSCEオブザーバーミッションは国境の違法な交差点を特定しなかったが、ラブロフが言及したOSCEミッションには、人と装備の交差点がある国境の長く無防備なセクションをチェックする義務はないと主張した。

ウクライナ国防相のヴァレリー・ヘレティは8月21日、過激派はウクライナ軍によって使用または購入されたことのないロシア製の武器を使用していると述べた。

負傷した親ロシアの戦闘機は通常、ロシア緊急事態省の支援を受けてロシアで治療された。

彼らはまた、ロシア国内の安全保障および諜報機関である連邦保安局（FSB）から質問を受け、登録された。

Bellingcatは、2014年以降、ドンバスにロシアのT-72B3およびT-90A戦車が存在することを報告しています。

この重要性は、これらの戦車がウクライナに輸出されたり、ウクライナによって守られたりしなかったことです。

T-72B3およびT-90A戦車は、イロヴァイスク、ルハンシク空港、およびデバルツェベの近くで使用されたと報告されています。

2016年3月、ドイツのビルドは、2015年10月の「ドネツクおよびルハンシク地域の南東部の被災地への人道援助提供のための省庁間委員会」の議事録がロシアが東部の過激派支配地域を運営していることを示したと報告した。

ウクライナ・ビルドによれば、「ウクライナ東部の自己宣言された人民共和国のメンバーが委員会に参加していないことは注目に値する」。

2019年以来、ロシアは未確認の全人口の中で65万を超えるロシア国内パスポートを発行しており、ウクライナ政府はこの地域の併合に向けた一歩と見なしています。

ロシアの戦闘序列：2021年

ドンバスの分離軍は、第1軍団と第2軍団の2つの軍団に編成されています。

ウクライナの情報筋は、これら2つの軍団を、ロシア南部軍管区内の第8警備隊合同軍本部に「運用上従属」していると説明しています。

2021年の時点で、これら2つの軍団の下位ユニットには次のものが含まれていると言われています。

第1軍団：

4つの電動ライフル旅団（第1、第3、第5、第100電動ライフル旅団）

2つの電動ライフル連隊（9番目と11番目の電動ライフル連隊）

2個の特殊部隊大隊（第1および第3 SF大隊）

1戦車大隊（第2大隊）

偵察大隊1個（スパルタ個別偵察大隊）

1個砲兵旅団（カルミウス砲兵旅団）[615]

第2軍団：

3つの電動ライフル旅団（第2、第4、第7電動ライフル旅団）

1電動ライフル連隊（第6電動ライフル連隊）

1戦車大隊（Pantzir Special Mechanized Force）

偵察大隊1個（別偵察大隊「グレカ」）

1つの砲兵隊[615]